2022年度
北陸ESD推進コンソーシアム
成果報告書

2023年2月

北陸ESD推進コンソーシアム

目次

はじめに ・・・

はじめに

2022 年度は、正に世界全体が持続可能性を問われ、今後の歴史の中でターニングポイントとなる年となった。

2022 年 2 月 24 日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、今日（23 年 2 月末）に至っても終結の糸口は見えない。コロナ禍に積み重なるようにして、エネルギー、食料、原材料等の供給・流通が大混乱に陥り、世界の経済や私たちの暮らしに大きな影響を与えている。この数年、特に今年度は「きっとこれからの社会はこうなるだろう」と考えていたことの目論見、前提が崩れ、対応や方策について一から見直さざるを得ない事柄が山積みとなった。

SDGs for 2030 についても、その達成はますます困難な状況となっている。戦闘による環境破壊はもちろんのこと、例えば、石炭などに比べ環境負荷の小さい天然ガスを当てにして今後の計画を立てていた各国はその供給網の破壊・混乱により大幅な対応見直しを迫られている。食料、資源についても、その主要生産国が当事国となったために、市場において奪い合いとなっており、どの国も安心して生産し暮らしていくことができる状況とはほど遠くなっている。「バックキャスティング」して、計画をたてて目標達成に向けて取り組みたくても、その前提が次から次へと崩れている状況なのである。

まさに、正答のない問題解決に取り組まなければならない今日/これからの社会において、ESD（Education for Sustainable Development）の役割は大きくなっている。「自ら」問題を見つけ、切り分け、方策を考え、必要な条件を揃え、様々な人々・機関と連携し、見通しを持って取組み、その成果課題を分析して、よりよい取組につなげる…このサイクルを回すことができる様々な力と経験を身につけるより豊かな機会を、地域・社会と学校等が連携して形成していく必要がある。

私共、北陸 ESD 推進コンソーシアムでは、北陸地域で様々に実践されている ESD、SDGs の取組について、共有・発信し、「横につなげる」ことを中心に取り組んでいる。北陸地域では従来から各学校や地域・団体において、地域の人々や文化、環境と関わり、課題問題を発見共有し、ともに考えて取り組む実践が個性豊かに展開されてきた。少子高齢化、教員の働き方改革など、学校や地域を取り巻く環境が年々厳しくなる中で、それぞれの実践が積み上げてきた魅力や工夫をよりわかりやすく、見える形で共有し、それを作ってきた方々と、これから取り組みたい方々をつなげて、より効果的に地域全体の取組の質的向上につなげたいと考え、実践支援やその成果と課題を見える化した「e ラーニング（動画）教材」の制作と取り纏め・発信、実践者・団体をつなげる「実践交流会」等を実施してきた。

これらの取組については数多くの関わる方々の実践・支援・協力を得て今日に至っている。改めて皆様には御礼申し上げるとともに、どうか今後も取組の中心となって、これからの社会をつくる子どもたちとともに学び、行動し、知恵の交流継続をいただけることを願います。

北陸 ESD 推進コンソーシアム　事務局長　加藤隆弘
（金沢大学教職実践研究科准教授）

【成果報告１】主要会議等報告

○北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会の開催概要

主催：北陸 ESD 推進コンソーシアム
後援：ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター
　　金沢市教育委員会、国連大学サステイナビリティ高等研究所
　　富山ユネスコ協会、石川県ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会
日時：令和 5 年 2 月 11 日（日）13：30～15：30
会場：オンライン開催
出席者：北陸 ESD 推進コンソーシアム会員及び関係者及び一般希望者
　　文部科学省国際統括官補佐、ESD-J、外部評価者、e ラーニング教材制作協力校
　　など　40 名
プログラム：
　開会挨拶　金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘
　来賓挨拶　文部科学省国際統括官付国際戦略企画官　白井　俊
　（挨拶概要）

まず主催者の北陸 ESD 推進コンソーシアムの皆様はじめ、本日お集まりの皆様には日頃から ESD の推進に御尽力をいただきまして本当にありがとうございます。

ESD は 2002 年のヨハネスブルグサミットで日本から提唱し、その後「10 年」、GAP、そして ESD for 2030 と、20 年以上にわたって続いてきているということで、国連やユネスコの場でも、ESD と言えば日本というほどに日本の取組は非常に高く評価されていると認識しております。

また、昨年の 9 月には、国連において、グテーレス事務総長が提唱されて国連教育変革サミットが行われました。この中で各国の首脳によるコミットメント、どういう風に教育に関わっていくのか、ということについて共有する場面がありました。そこで岸田総理から日本の教育変革に関する取組としてビデオメッセージを送っていただきまして、日本は引き続き、全力で ESD を推進して世界をリードしていくと言及をいただきました。

また日本ユネスコ国内委員会でもユネスコスクールを ESD の推進拠点ということで進めまして、ユネスコスクールは全世界に 1 万ちょっとの学校があるのですけれども、その中の 1 割以上が、実は日本の学校が占めるというような状況になってございます。そういう意味でも ESD は日本がこれからも力を入れていくべき政策だと認識しているところでございます。

北陸 ESD 推進コンソーシアムにおかれては、多様なステークホルダーの皆様方が集まって、様々な取組、御尽力をいただいているということをお伺いしております。とりわけ代表機関でいらっしゃる金沢大学におかれては教育委員会・学校教員等を対象とする ESD の実践であるとか、教育経営に関する e ラーニング教材の開発ということもされていると伺っております。その実践などについて市・学校などからの報告もあるということで、大変楽しみにしているところでございます。

最後になりますけれども、G7 の教育大臣会合が富山・金沢で開かれるということもございまして、北陸地域に非常に注目が集まっているところだと思います。本日のイベントも 1 つの契機として、さらに ESD について盛り上がっていくと良いと思っております。本日はどうぞよろしくお願いします。

＜成果報告１＞

１．ユネスコスクール活動報告（短縮した e ラーニング教材動画あるいは直接報告）

【学校教育】

・「英語のよさと世界の多様性を感じながら、コミュニケーションの本質に迫る子ども」
（富山県）富山市立堀川小学校　教諭　杉本　茉由

・「伝統とチャレンジ」
（石川県）金沢市立馬場小学校　校長　國分 孝二、教諭　深澤　淳

・「『珠洲の里山・生きもの観察会』『SDGs 学習』への取組（珠洲市）」
（石川県）珠洲市教育委員会事務局　学校教育係　太佐　真一郎

【社会教育等】

・「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」
（富山県）富山ユネスコ協会　副会長　水上　庄子

・「『すべての子どもに自然を！プロジェクト』南砺市保育園自然観察会の実践報告」
（富山県）富山福祉短期大学　准教授　藤井　徳子

・「金沢 21 世紀美術館オンラインツアー ～金大附属病院 院内学級とともに～」
（石川県）金沢 21 世紀美術館　森　絵里花

【学生による e -ラーニング教材制作事例】

・「大学生目線で作成した、金沢市立小中学校の ESD 実践事例動画
"大学生が行く　ESD たんけん！"　の報告」
（石川県）株式会社ガクトラボ　ユースコーディネーター　高山大生
金沢大学学生グループ

2. 質疑応答、意見交換

3. 講評 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官　白井　俊
金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘
国連大学 OUIK　富田　揚子
富山国際大学子ども育成学部　松山　友之

（講評概要）

（文部科学省国際統括官付国際戦略企画官　白井　俊）

全体の発表を聞かせていただきまして、まず思ったのがご発表者の選択が非常に良かったということです。学校の先生ももちろんいらっしゃいますし、それだけでなくて、ユネスコ協会の方であったり、大学の方であったり、美術館の方であったり、色々な方々がそれぞれの視点で取り組まれていることが

本当によく分かりました。まずそこに感謝申し上げたいと思います。

私からコメントとして 3 点だけ申し上げたいと思います。

まず 1 つに、ESD の根底に行動変容にいかに繋げていくのかという部分がございます。 その意味で、それぞれのアクションが具体的に子供たち、あるいは大人の行動変容にどう繋がっていったのか、というところについてもうちょっと聞きたかったというところがございました。

2 点目です。特に学校が ESD を体系的に教育課程の中で取り入れていらっしゃることが非常によく分かりました。一方で、先生方にとっては結構大変だろうと感じたところです。今、非常に残念なことでありますけれども、先生になろうという若手が減ってしまっているという厳しい現実がございます。我々教育関係者は、どうしても子供たちのために大人が頑張らなくてはいけないと感じる一方で、まずは先生方が楽しんでいただくことが必要な部分かと思います。先生も大人も楽しんで、やりがいを感じて、それが結果的に子供たちに跳ね返ってくると思います。そういう中で先生になりたい方が増えてくると良いと思います。おそらく ESD の活動をうまくやっていけば、楽しめるものだと思いますので、ぜひ、それを子どもの方に還元できるような形になっていくと良いと思います。

3 点目です。ESD が始まってから、色々な蓄積がございます。年月も経ってきました。そうなってきますと、ESD の次の展開は一体はどうなるのか、という厳しい声も色々なユネスコにおける議論から聞こえてきております。ESD for 2030 ということで 2030 年までは ESD を続けて、その次の一手はどうなっていくのか、ということは考えなければいけないところでございます。ESD をリードしてきた日本として、これまでの活動から脱皮をして、一歩上にアップグレードしていくための ESD 活動とはどんなものか、是非 ESD に関っている皆様方から新しいご知見・アイデアをいただいて、2030 年以降の ESD に生かせていくことができればと思ってございます。

（金沢大学　加藤　隆弘）

発表くださった皆さん、本当にありがとうございました。

先ほどにも話がありましたが、子どもたちは取り組みの中で行動変容が求められていく。単に、言われたから変えていくということではなく、身近な事柄あるいは実感した事柄を通して学んでいくなかで、進んで自分から変えていきたい、変えられるところは何かということに気づいていくことがとても大事だと思います。そういうことに取り組んでいただいた取り組みが、今回もたくさん紹介いただいたと思います。

堀川小学校の事例については、実際に関わる中でいろんな価値があるということ、言葉があるということを、定期的に交流する中で、その大切さ、必要感が生じてくるという良さがありました。

馬場小学校は学校の任命式から、身近な環境の浅野川との繋がりを感じながら、学びを深めていく。伝統豊かな地域でもありますので、その体験を通して、それが実は持続可能な環境作りと繋がっていることを子どもたちが実感しながら、自然環境と伝統工芸の両方の価値を学んでいく実践に繋がっていたと思います。

珠洲市教育委員会の取り組みも、私は各学校に関わって少し様子は見させていただいています。子どもたちが減っている地域ではありますが、大舞台で自分たちが取り組んできたものを発表し、交流できる機会を持つ。そのプロセスの中で能登 SDGs ラボや NPO の皆さん、地元農家、色々な学校を取り巻く周りの大人たちがたくさん関わって、自然を共に学んでいくという経験がある。また、研修も定期的

にされているという市全体での取り組みが、これからの子どもたちの探求の取り組みを支えていくという 1 つのモデルケースを見せていただいた。地方で魅力のある学び、実感のある学びを作っていくための大事なポイントを教えていただいたように思います。

富山ユネスコ協会の水上先生の取り組みは、宗派の異なる 5 つの寺院が共同して、地域の方々も関わって、多様な価値観の中で、平和を大切にしていこうということを実感しながら活動していく。そして表現活動につなげていくという取り組みがしっかりと根づいている様子を拝見できました。

南砺市保育園でのプロジェクトも、指導者養成も含めてされていることがとても大事な要素だと感じました。ベテランの方が元気なうちはいいけれども、その方が引退されるとそういう活動がしぼんでいくことが良くあるのですが、指導者の若手を育てている。また、指導員によって保育園の普段の散歩道の中に新たな視点を持った子どもたちや先生方は、普段から関心を持って周りを見ていくことができる。これは普段の教育学習活動の改善にも繋がってくるような、とても大事な取り組みのヒントをいただいたと思います。

金沢 21 世紀美術館の方も、子どもたちの目線に立って、一緒に見ているように見学していくという姿勢や、誰でもやろうと思ったらできるように簡単な仕掛けで行ったという工夫を教えていただきました。

最後、学生さんたちの作った動画ですけれども、まずみなさんまとめるのが本当に上手だと思います。学校の実践を学生目線で見た時に、こんな価値・意味があるのではないか、と思ったことをもう少し掘り下げて先生にインタビューしているところが大事だと思ったところです。

全体を通して言えるのは、様々なステークホルダーが多様に関わって、その中で普段できない学びをしながら普段から考え行動していくことに繋げようという取り組みに皆さんの取り組みが繋がっているので、ぜひこれを紹介し、また新たな取り組みに繋げていきたいと思います。

（国連大学 OUIK 富田　揚子）

皆様、様々な取組を発表いただきありがとうございます。学校教育の場では、先生方の工夫がたくさん見られて、とても参考になるものばかりだったと思います。ESD の教育の醍醐味は単に知識を学ぶだけではなく実践を通じて学ぶところだと思います。すべて、なぜだろう、どうしてこういった問題が起こるのだろうと考える、自分で考えるところから始まり、その問題を知って、原因を考えて、向き合うところが ESD の第一歩だと思っております。そういったことを繰り返していくうちに、環境問題を学んだり、人々が協力して連携していくことが問題解決には不可欠だということを学んだりできると思っております。

私たちは国連の研究機関でありまして、石川県内で持続可能な、自然に関する研究や、能登の方の世界農業遺産のモニタリング研究を行っております。国連では、気候変動枠組み条約の締約国による会議が毎年開催されております。昨年も COP27 という気候変動に関する会議がエジプトで開催されました。この昨年の会議ではパリ協定の 1.5 度目標、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて 1.5 度に抑えるという目標の重要性を再確認し、その目標を強化するために色々な議論が行われた会議でした。今年、国連大学は石川県の学校と協力して、環境に関する活動や持続可能な社会に対する活動をされている石川県のユースに、今年行われる COP28 の国際会議に参加してもらい、気候変動など様々な課題に対する対策を提言していただくという、ユースエンパワーメントプロジェクトを行う予定でございま

す。皆さんからご紹介いただいたような様々な活動も、そのユースの皆さんの意識改革にも繋がっていると思います。これからも具体的なアクションをどんどん主体的に行っていっていただきたいと思いました。

（富山国際大学　松山　友之）

今日は皆さん発表どうもご苦労様でした。すごくたくさん学びをいただきました。

富山のマレーシアの学校との交流や金沢の伝統とチャレンジの発表では、活動だけで終わってしまわず、その活動の中で子どもたちが自分の心の部分に向かってベクトルが動いている。先ほど、行動の変容という話がありましたが、子どもたちの行動の変容は、心が動いて初めて起こることが多いと思っていますので、この２つの発表にとても考えさせられました。

また、珠洲市においては、地域を行政全体で動かすことが、先生方の負担を減らしながら持続的な活動をするためには大きな力になると感じました。

＜成果報告２＞

4. 文部科学省ユネスコ活動費補助金事業の報告

「北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発及びコミュニティづくりによる教員等の専門能力開発」

・北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材の開発

・ESD コミュニティ創生支援事業

・SDGs の達成という観点に立った北陸の教員養成

5. ユネスコ未来共創プラットフォーム事業の報告

6. 外部評価

各外部評価委員から外部評価の概要をコメント

ESD-J　鈴木　克徳

奈良教育大学　中澤　静男

信州大学　水谷　瑞希

閉会挨拶　石川県ユネスコ協会　今井　和愛

○北陸ユネスコスクール実践交流会の開催概要

日時：12 月 3 日（土）14：00～16：00

場所：オンライン（金沢大学 Zoom システム使用）

主催：北陸 ESD コンソーシアム・石川県ユネスコ協会

後援：ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、金沢市教育委員会
富山ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会

出席者：30 名

目的：SDGs 達成に向う ESD を進める授業実践や教育活動の交流
―ポストコロナへ・「SDGs 達成に向けた ESD」の歩み―

プログラム：

開会挨拶　金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘

中部地方 ESD 活動支援センター　原　理史

１．実践事例発表

（１）福井県　勝山市教育委員会事務局　教育指導係　指導主事　　廣田　大吾

「勝山市の ESD」

（２）富山県　富山市立堀川小学校　教諭　田平　佳祐

「路面電車を通して市民の公共性を考え『まちづくり』に参画する子ども」

（３）石川県　珠洲市立緑丘中学校　２年　教諭　牧　宜伸

「『珠洲の香り』プロジェクト（花王株式会社とのコラボ企画)」

（４）石川県　珠洲市立緑丘中学校　３年　教諭　滝口　昴陽

「『馬とともに暮らす』珠洲の風景」

（５）【ゲスト】石川県　能登町立小木小学校　教諭　夛村　智己

「海洋教育について」

（６）【ゲスト】長野県　山ノ内町立南小学校　教諭　林　功将

「佐野遺跡の魅力再発見」

２．全体交流・まとめ

３．講評　　金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘

ESD-J 理事　鈴木　克徳

４．講演　　「SDGs 達成に向けた ESD 及びユネスコスクールの最新状況」

ESD-J 理事　鈴木　克徳

参加者の感想より

・　どの実践事例も地域や様々なところと連携・協働し活動しており非常に評価できる。
・　子供たちが他人事ではなく自分事として捉えて地域に関わっていけるような力を育てる実践になってきている
・　企業と一緒に取組をしていることが素晴らしい。

○北陸 ESD 推進連絡協議会の開催概要

北陸の SDGs・ESD に関する活動を共有し、地域ユネスコ活動との連携を深めながら協働活動を促進し、関係者の連携を強化するために、北陸 ESD 推進連絡協議会を石川県ユネスコ協会が主管して運営することにした。これまで 3 年間は石川県ユネスコ協会は地球環境基金助成事業として行ってきたが、今年度は地域 ESD 活動推進拠点として事業を継続することとなった。

本年も昨年度に引き続き 6 月～9 月に北陸 3 県の SDGs・ESD 推進する大学・行政・NPO・民間ユネスコ協会等の団体・個人の 24 名を北陸 ESD 推進連絡協議会の委員に委嘱した。

令和４年度 第１回北陸 ESD 推進連絡協議会

日時：令和４年 ９月 27 日（火）14：00～16：00　　場所：オンライン

※参加者 14 名

１．簡単な自己紹介 （ 名前・所属・一言　１人１分程度 ）

２．令和４年度北陸 ESD 推進コンソーシアムの事業について

（1）ユネスコ活動費補助金事業

SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業

「北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発及びコミュニティづくりによる教員等の専門能力開発」

① 【SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発及び ESD コミュニティ創生支援事業】

② 教員養成支援事業

③ 周知普及事業

④ 外部評価

３． ESD に関わる現状について

① 北陸３県の ESD・SDGs 推進状況(能美:新/富山:高木・成瀬/福井:廣田・浅利)

② 全国(鈴木)・中部の現状(原)

４． その他（意見・情報交換）

・ オンライン講座開講（第一回講義） ９月 30 日（金）17：30～19：00

「SDGs 達成に向けた ESD」による授業の転換・革新（授業分析を通して）

奈良教育大学 ESD・SDGs センター長（教授） 中澤　静男 氏

令和４年度 第２回北陸 ESD 推進連絡協議会

日時：令和５年２月 15 日（水）19：00～21：00　　場所：オンライン

※参加者 10 名

1. 令和４年度石川県ユネスコ協会の取組について

① 地域ユネスコ協会としての ESD・SDGs 推進事業

・ ユネスコ国際ジャズ DAY in かなざわ・朱鷺の保護支援活動

・ ユネスコ SDGs フォーラムの開催

② 北陸 ESD 推進連絡協議会の開催・運営

2. 令和４年度北陸 ESD 推進コンソーシアムの事業について

① 文科省ユネスコ活動費補助金「SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業」の報告

・ 北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材の開発

・ ESD コミュニティ創生支援事業

・ 「SDGs 達成に向けた ESD」を学ぶオンライン講座（試行）

・ SDGs の達成という観点に立った北陸の教員養成

② ユネスコ未来協創プラットフォーム事業について

「ユネスコ未来協創プラットフォームの発展に資する ユネスコスクールネットワー

ク活性化事業」

石川県立大聖寺実業高等学校・南砺市立平中学校・ 国際高等専門学校

3. 意見交換
4. 各参加団体（個人）の活動紹介・情報交換・共有
5. その他（来年度への展望・連絡事項）

◯「SDGs 達成に向けた ESD」を学ぶオンライン講座（試行）の開催概要

・開催概要

第 1 回　日時：2022 年 9 月 30 日（金）17：30～19：00
講師：奈良教育大学　中澤　静男
講義題:「『SDGs 達成に向けた ESD』による授業の転換･革新（授業分析を通して）』
参加者：教員、学生・院生等　15 名

第 2 回　日時：2022 年 10 月 28 日（金）17：30～19：00
講師：元国連大学 OUIK 事務局長　永井　三岐子
講義題：「SDGs 達成をローカライズするには」及び「ESD for 2030 への期待」
参加者：教員、教育機関等職員、学生・院生等　15 名

第 3 回　日時：2022 年 12 月 17 日（土）16：00～17：30
講師：金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘
講義題：「宇宙教育と ESD」
参加者：教員、教育行政職員、学生・院生等　20 名

第 4 回　日時：2023 年 1 月 13 日（金）17：30～19：00
講師：南砺市教育委員会教育長　松本　謙一
講義題：「ESD・SDGs の魅力と可能性」
参加者：教員、研究者、教育行政職員等　12 名

・アンケート

オンライン講座参加者を対象にアンケート調査を行い、20 件の回答が寄せられた。
回答者の 75%は教員や行政機関の職員などで、残りの 25%は学生であった。受講したオンライン講座の内容について、100%が「とても良かった」「良かった」と回答し、非常に満足度の高い講座となった。
今後の講座で学ぶ内容について、多かった順に以下の通りとなる。

「『SDGs 達成に向けた ESD』の教育実践（授業）の実際」（13 票）
「『SDGs 達成に向けた ESD』で転換（進化・深化）する授業とは」（12 票）
「『SDGs 達成に向けた ESD』で開発される教師の専門性、専門的能力とは」（12 票）
「『SDGs 達成に向けた ESD』におけるカリキュラムマネジメントとは」（9 票）
「『SDGs 達成に向けた ESD』における教育経営（学校・行政）の実際について」（9 票）
「『SDGs 達成に向けた ESD』の授業における評価について」（8 票）

「『SDGs 達成に向けた ESD』、『ESD for 2030』」とは（6 票）
「ESD におけるホールスクールアプローチとは何か」（6 票）
「なぜ今 SDGs・ESD なのか（基礎基本）」（5 票）
「SDGs とはなにか（基礎基本）」（3 票）
「ESD とはなにか（基礎基本）」（3 票）
「SDGs の 17 ゴールの一つ一つとその相互の関係について」（2 票）
次に、今後講師として招聘したい方についても回答の多い順に以下の通りとなった。
「学校現場で授業実践を行う教員」（14 票）
「JICA などの国際協力関係機関の職員」（11 票）
「文部科学省や教育委員会などの教育行政等の職員」（10 票）
「研究者（大学教員等）」「国連大学やユネスコなど国連関係職員等」「NGO、NPO 等の職員」（8 票）
「ESD 活動支援センターの職員」（7 票）
「ホールスクールアプローチなどの学校経営を行う校長等」（3 票）
運営面について、講座の時間は 80%が「適切」と回答したが、「もっと短い方が良い」「もっと長い方が良い」と回答した人がそれぞれ 10%ずついた。開講シーズンは 60%が「学期中」を希望し、35%が「長期休業期間」を希望した。開講曜日については 60%が「平日」を希望し、30%が「土日休日」を希望した。開講時間については、もっとも多かったのが、「勤務時間終了直後（17 時頃から）」（11 票）、次いで「勤務時間終了後（18 時頃から）」（8 票）、最後に「勤務時間内」（5 票）であった。講義時間は、半数以上が「90 分」を希望した。開催頻度については 90%が「月 1 回程度」で半年から通年を望んだ。

◯北陸 3 県における県別報告会、交流会

・石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会
主催：北陸 ESD 推進コンソーシアム　石川県ユネスコ協会
後援：ESD 活動支援センター　中部地方 ESD 活動支援センター　金沢市教育委員会
　　富山ユネスコ協会　ふくいユネスコ協会
日時：2023 年 1 月 21 日（土）13:30～15:00
場所：オンライン（Zoom）
出席者：学校関係者、大学関係者、団体など 17 名
参加証：報告された学校の生徒・教諭へ講評を記した参加証を送付
プログラム：
開会挨拶　金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘
１．県内学習活動報告
〈小学校〉
① 金沢市立中村町小学校 6 年生　教諭　山岸　香美
「いいね金沢　伝統工芸と金沢」

② 金沢市立森山町小学校 6 年生
「私たちにできることって何だろう？～加賀友禅卒業証書台紙づくりを通して～」
③ 金沢市立金石町小学校 6 年生
「兼六園を今の景観のまま未来につなぐには」
〈中学校〉
④ 珠洲市立緑丘中学校 2 年生　教諭　牧　宜伸
「『珠洲の香り』プロジェクト（花王株式会社とのコラボ企画）」
⑤ 珠洲市立緑丘中学校 3 年生　教諭　滝口　昂陽
「馬とともに暮らす珠洲の風景」
⑥ 金沢市立医王山中学校 3 年生　教諭　咲川　敦子
「いやさか踊りの体験を通したまちづくり」
⑦ 金沢市立長田中学校生徒会
「生き方を考える長田中の演劇活動」
⑧ 金沢市立芝原中学校 3 年生
「守ろう！地域の自然　受け継ごう！地域の生活文化」

２．感想の交流及び意見交換（概要）

・ 子どもたちがよく準備をし、自信を持って発表している姿が大変素晴らしい。
・ 現場の人たちや、研究している人たちの意見を直接聞いて発表しており良かった。
・ SDGs 学習は学びで終わらせてはいけない。SDGs は達成することを目標としている。
・ 子どもたちが社会の役割を担っていることを自覚し、社会が子どもたちの提案を引き受けて、一緒に取り組んでいくことが SDGs である。SDGs の起点はまさに子どもたちであるということを再確認できた。
・ 金沢市はふるさと学習というカリキュラムを前提としているため、似たような取組が多く多様性に欠けている面がある。
・ 実践後に見直しをし、取組の意義や目的について生徒・教員ともに確認する場があると良い。
・ 子どもたちの学習が単年度になってしまい、継続的に繋げていくことが課題。
・ 珠洲市の珠洲創造のカリキュラムでは学年末の 2・3 月に次学年でやることをスタートさせているため年度始めから新しい教員とすぐに取り組むことができる。

３．講評　金沢大学大学院教職実践研究科　加藤　隆弘
金沢星稜大学人間科学部こども学科　清水　和久

閉会挨拶

・SDGs-ESD 富山シンポジウム（意見交換会）～G7 富山・金沢教育大臣会合関連イベント～

日時：令和 5 年 2 月 14 日（火）13 時 30 分～
プログラム：
1. 開会の挨拶　委員長　成瀬　喜則
2. 激励の言葉　学校教育課長　川端　紀代美

3.　実践事例発表（富山市小学校・中学校）　オンライン参加校にも配信

①富山市立堀川小学校　「市電が走る富山市・南富山駅」

②富山市立芝園中学校　「生徒が積極的に活動できる活気ある学校を目指して」

③富山市立南部中学校　「南部中学校の SDGs の取組について」

4.　全体での意見交換　～実践事例発表について～

5.　グループでの意見交換（会場参加校とオンライン参加校に分かれて）

ユネスコスクール及び富山市内小学校

・　グループ１　　小学校４校

・　グループ２　　小学校４校

・　グループ３　　小学校４校

・　グループ４　　中学校２校、小学校１校

6.　質疑・応答等

7.　講評　髙木　要志男

8.　閉会の言葉　鈴木　克徳

・福井ユネスコスクール等・SDGs 交流会

※令和４年度は事情により中止

【成果報告２】実践報告・事業報告

○ユネスコスクール等の実践報告

今年度は、富山県２校、石川県４校、福井県２校の学校と石川県の２教育委員会、１ユネスコ協会、公民館１館、美術館１館、市立保育園１市の実践報告を行った。内容的には、SDGs を意識し地域の SD の課題や、公共交通、海外との学習交流、保育園の自然観察会、地域の平和活動など多様性に富んでいた。

一つには、昨年度の院内学級を支援する野外教育施設の実践が継続されるだけでなく、金沢市立 21 世紀美術館にも同様の取組がなされ、オンラインによる美術館見学をボランティアの方々の努力で実施され教材化できた。また、昨年度 SDGs に取り組む公民館を学生たちが取材した教材作成を継続し、金沢大学の学生・院生が金沢市内の小学校、中学校それぞれ 1 校の ESD・SDGs 学習を取材し、その魅力を発信する教材を開発した。このように、年を重ねての継続的で発展的な教材づくりができたことは大きいと考えている。

二つには、ジオパーク学習と ESD を組み合わせた取組をしている ESD 拠点である福井県勝山市の教育委員会の行政的な取組と、長年にわたり「生き物観察会報告会」や「SDGs 学習報告会」を ESD・SDGs 学習の要として取り組んできた珠洲市及び珠洲市教育委員会の行政的な取組を教材化できたことは、教育経営面での教材化の端緒となったと考えている。

三つには、長年行われてきているユネスコ協会の活動の意義を伝える教材が制作されたことの意味は大きいと考えている。これまで地道に継続してきた地元のユネスコ活動の ESD･SDGs 的な価値を再認識するとともに、今後の継承発展に寄与できると考える。

四つには、日本自然保護協会と連携して試行された、南砺市立保育園での自然観察会の取組を教材化できる手がかりを得たことは､これまで未開拓であった幼児教育における ESD･SDGs 学習を考え広める上で大きな意味を持つと今後に期待している。

五つには、石川県能登町立小木小学校で行われている「海洋教育」を報告いただいたことの意味は重要だと考えている。ESD・SDGs 学習と標榜はしていないが「海洋教育」は
その目的と内容は正に ESD であり SDGs 達成につながる教育であると実感でき、学校もその関係について明確に理解したいと考えており、今後の連携が期待される。

今年度も、コロナ禍にありながら北陸の各地において SDGs 達成に向けた ESD の授業が力強く営まれていたことは、ポストコロナにつながると感じた。ただ、昨年度期待した今後 e ラーニング教材化が期待される実践には、必ずしもつながっておらず課題が残った。

○2022 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム e ラーニング教材制作協力者交流会

主催：北陸 ESD 推進コンソーシアム
目的：昨年度及び今年度の e ラーニング教材制作協力者が集い、SDGs 達成に向う ESD の実践を交流するとともに、e ラーニング教材化することの意義や可能性等について討論し、成果

と課題を共有する。

参加者：20 名

2020 年度 e ラーニング教材（実践編）の制作協力者及び関係者

2021 年度 e ラーニング教材（実践編）の制作協力者及び関係者

2022 年度 e ラーニング教材（実践編）の制作協力者及び関係者（予定者）

北陸 ESD 推進コンソーシアム関係者

日時：2022 年 8 月 19 日（金）17：00～18：30

会場：オンライン（Zoom）

プログラム：

開会挨拶

１．参加者自己紹介

２．2021 年度制作協力者による教育実践と制作概要

2022 年度制作協力者の現段階での教育実践の概要

３．e ラーニング教材制作に関する質疑応答、意見交換

○補助金や助成金を受けた事業の報告概要

【金沢大学：令和４年度ユネスコ活動費補助金事業】

「北陸における SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発及びコミュニティづくりによる教員等の専門能力開発」

１．SDGs 達成に向けた e ラーニング教材（実践編）の開発

（１）予備調査(訪問・ヒアリング)

調査対象

石川県ユネスコ協会、能登 SDGs ラボ、JICA 北陸、金沢市教育委員会、犀桜小学校、中央小学校、不動寺小学校、中村町小学校、医王山小中学校、野田中学校、緑中学校、高岡中学校、小立野小学校、金沢大学付属病院内学級、キゴ山ふれあい研修センター、２１世紀美術館

富山ユネスコ協会、南砺市立城端さくら保育園、日本自然保護協会

ふくいユネスコ協会、勝山市教育委員会

調査時期：６月～８月

昨年度と同様に、コロナ禍が継続する中で学校現場が難しい状況が続いていると感じた。また、働き方改革も相まって、教育委員会もまた学校現場、教職員への負担増については極めて敏感であると感じた。文科省の「ユネスコスクールの新たな展開」にある登録後の質の担保等の要請については、現場の緊張感や深い理解があるとは感じ難い面があった。一方で、ユネスコスクールとしての現状や ESD・SDGs 学習に関する教育活動状況を見直し充実させようと模索する学校や教員の動きも認められた。また、ESD・SDGs 学習の重要性を研修で気づかされた学校図書館司書が、勤務校での図書館に SDGs 関連の掲示や図書コーナーを設定するなどの動きも確認できた。しかし、教育センターや校内で行う研修には ESD・SDGs に関する系統的な講座などが設定されていない現状も見られた。

一方で、コロナ禍対応の緩和の中で、学習活動や報告会、交流会、研修等の対面化が進んできていることも実感した。また、金沢市教委が１月に「SDGs 子どもフォーラム」を対面で実施し、北陸 ESD 推進コンソーシアムから講演者の依頼もあるなど、北陸においても改めて ESD・SDGs に関する活動や取組が活性化する兆しを感じた。

昨年度と同様に、教員等が個人で視聴し研鑽できる e ラーニング教材の必要性とニーズがあることを確認できた。また、ESD・SDGs について系統的に学べるオンライン講座のような機会を整えることも試行する価値があると感じた。

北陸 3 県では、未来都市が 12 都市認定されており、これまでそれぞれの県において、児童生徒が ESD・SDGs に関する学習活動を報告・交流する会を、ユネスコ協会や市教委等と北陸 ESD 推進コンソーシアムとが共催する形で開催してきたが、未来都市を中心に自治体単位でも開催する傾向が強まってきたと感じた。積極的に支援・協力することが必要と感じた。

（２）SDGs・ESD 推進検討委員会の設置と検討

コンソーシアムメンバーを中心に設置し、オンラインで e ラーニング教材作成等の検討のため会合を開催した。

① 7 月 22 日（8 名）〔今年度事業概要、コンソーシアム体制、ユネスコスクールの加盟支援、e ラーニング教材制作者交流会、未来都市との関係構築等〕

② 8 月 23 日（7 名）〔能美市の取組について、今年度からのユネスコスクールの評価・研修について、学会等発表、e ラーニング教材制作予定等〕

③ 10 月 24 日（10 名）〔オンライン講座概要、外部評価委員、交流会等予定確認、第 1 回北陸 ESD 推進連絡協議会の概要報告〕

④ 11 月 30 日（10 名）〔交流会の e ラーニング教材化、各県別ユニット報告、e ラーニング教材制作予定、各県児童生徒交流会予定〕

⑤ 1 月 10 日（12 名）〔各県ユニットの活動報告、e ラーニング教材制作進捗状況、各種アンケート・調査の回答履行、富山福祉短大 藤井准教授紹介、能美市の取組状況紹介〕

⑥ 3 月上旬に予定 〔来年度の予定等の調整及び意見交換〕

（３）今年度制作した e ラーニング教材（実践編）

SDGs の達成に向けた ESD e ラーニング教材（実践編：15 分前後）を、北陸 3 県の学校 9 校と教育施設等の連携団体 6 団体の協力を得て 15 本制作した。

（富山）

1．「英語のよさと世界の多様性を感じながら、コミュニケーションの本質に迫る子ども」
富山市立堀川小学校 教諭 杉本 茉由

2．「路面電車を通して市民の公共性を考え『まちづくり』に参画する子ども」
富山市立堀川小学校 教諭 田平 佳祐

3．「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」 富山ユネスコ協会 副会長 水上 庄子

4．「草木染をしよう センス・オブ・ワンダー」
富山市立細入公民館 放課後児童クラブ指導員 平岩 貴子

5．「『すべての子どもに自然を！プロジェクト』南砺市保育園自然観察会の実践報告」
富山福祉短期大学 准教授 藤井 徳子

（福井）

6．「勝山市の ESD」 勝山市教育委員会 教育指導係指導主事 廣田 大吾

（石川）

7．「伝統とチャレンジ」 金沢市立馬場小学校 校長 國分 孝二、教諭 深澤 淳

8．「金沢 21 世紀美術館オンラインツアー ～金大附属病院 院内学級とともに～」
金沢 21 世紀美術館 森 絵里花

9．「大学生が行く ESD たんけん！～医王山小中学校～」

金沢市立医王山小中学校　教諭　咲川　敦子
金沢大学学生・院生グループ、ガクトラボ

１０．「大学生が行く ESD たんけん！～中村町小学校～」
金沢市立中村町小学校　教諭　山岸　香美
金沢大学学生・院生グループ、ガクトラボ

１１．「『珠洲の香り』プロジェクト（花王株式会社とのコラボ企画)」
珠洲市立緑丘中学校２年生　教諭　牧　宜伸

１２．「『馬とともに暮らす』珠洲の風景」
珠洲市立緑丘中学校３年生　教諭　滝口　昂陽

１３．「海洋教育について」　能登町立小木小学校　教諭　夛村　智己

１４．「『珠洲の里山・生きもの観察会』『SDGs 学習』への取組（珠洲市)」
珠洲市教育委員会事務局　学校教育係　太佐　真一郎

（長野県）

１５．「佐野遺跡の魅力再発見」　山ノ内町立南小学校　教諭　林　功将

（４）SDGs・ESD　e ラーニング教材（実践編）の制作プロセスと校内研修

① SDGs・ESD　e ラーニング教材（実践編）の制作校及び制作協力者の公募（6、7 月）
② 制作校及び制作協力者の依頼（7 月末）
③ 仕様書の通知及び e ラーニング教材制作協力者交流会（8 月）
④ 題材となる教育実践の参観及び指導・支援（9 月～12 月）
⑤ 昨年度の e ラーニング教材を参考に視聴（7 月～）
⑥ 教材の基本となるスライド、読み上げ原稿、教材となる動画提出と校内研修及びアンケート依頼（12 月）
⑦ 1 月 27 日までに動画提出完了及び完成した e ラーニング教材で協力校ごとに校内研修を実施し、研修参加者へのアンケート調査の提出完了（1 月下旬）
⑧ 提出された e ラーニング教材について学識経験者で検討
⑨ 3 月初旬に公開

（５）SDGs・ESD　e ラーニング教材（実践編）の制作プロセス（II）

① 北陸 ESD 推進コンソーシアムがオンライン開催する交流会、報告会等で教育実践等報告いただく。
② オンラインで発表された様子を動画で録画する。
③ e ラーニング教材化する部分を切り取り編集する。
④ 編集後の動画を発表者等に確認し、更に編集が必要な場合は再編集する。
⑤ 完成した e ラーニング教材を同僚等に視聴してもらいアンケートに回答してもらう。
（この後は、（４）の⑦に続く）

（６）e ラーニング教材を活用した校内研修の概要

e ラーニング教材（実践編）を制作した各制作協力校では、完成した動画仕立ての教材を職員で視聴する校内研修が実施された。概ね、下記のような内容で行われた。

① 校内の教職員で e ラーニング教材（実践編）を視聴
② 質疑応答、意見交換
③ アンケート記入

（7）アンケートの集計概要（別添資料：アンケート用紙及びアンケート結果）

今年度は Google フォームと用紙の両方においてアンケートを実施し、2 月初旬の同時期で昨年よりは多い 34 件の回答を得た。しかしながら、アンケート回答数はまだまだ少なく、アンケート回収は大きな課題である。

回答者の約 7 割が職業人で、残り 3 割は学生、主婦だった。所属で多かったのは「小学校」で、「地域、NPO、NGO などの団体等」が続いた。

「これまで SDGs や ESD について研修や授業など学ぶ機会はありましたか。」という問いには 33.3%が全くなかったと回答し、「新学習指導要領には ESD や SDGs の考え方が反映されていることについて、研修や授業などで学ぶ機会はありましたか。」に関しては半数近い 47.1%が「全くなかった」と回答した。ESD や SDGs に関する研修機会に課題があると推察できる。

次に「今回視聴した e ラーニング教材（実践編）は SDGs、ESD を進める上で役に立ちましたか。」という問いには 94.2%が「役に立った」と回答した。具体的には、SDGs への取組が具体的かつ身近であることが、視聴者に理解されていることが伺えた。特に、e ラーニング教材の中での ESD ポイントの伝達や、わかりやすい映像、絵本の活用、そして地域の素材や人材を活用した取組などが、参加者にとって有益だった。また、子どもたちが自然素材を使用して活動し、その結果として持続可能性や世代間交流などの目的が達成されている点に、参加者からの高い評価が寄せられていた。

「今後の e ラーニング教材の内容として、どのような内容が必要だと思われますか。」という問いに対しては、多い順に「SDGs、ESD に関する基礎知識」（15 票）、「学校で行われている SDGs 達成に向けた ESD に関する教育実践」（11 票）、「企業や民間団体、地域で行われている SDGs、ESD に関する実践」（10 票）、「校種別（幼、小、中、高）の教育実践」（9 票）などであった。

今後、コンソーシアムに必要な事としては、「SDGs、ESD に関する最新情報をホームページで提供する。」「北陸という身近な地域での SDGs、ESD の多様な実践を、実践者が紹介できる環境をつくる。」（各 16 票）の 2 つの回答が最も多く、次いで「SDGs、ESD に関する研修会や交流会などを開催する。」「SDGs、ESD の初歩的なことから e ラーニング教材など実践に関することなどについて、専門家と質疑応答ができる環境をつくる。」（各 8 票）という回答が多かった。年を重ねても、SDGs や ESD の基本的なことについての学習ニーズが高くとどまっている。

（8）SDGs・ESD 推進検討委員会が果たした役割の特徴

富山県、石川県、福井県ごとに担当支援コーディネーターを決め、常時支援ができた。また、

富山大学のコーディネーターが仲立ちし、富山市立小学校とマレーシアの学校の交流が始まり、その交流の様子をｅラーニング教材化できた。学生グループによる学校取材とｅラーニング教材制作については、事務局支援コーディネーターが市教委と話しあい、コロナ禍ではあるが取材受け入れ可能な学校を紹介いただけた。SDGs 未来都市となっている珠洲市の取組を支援している能登 SDGs ラボとの連携を継続し、2 本のｅラーニング教材を制作することができた。また、今年度はコーディネーター自身が自らの活動母体でｅラーニング教材を作成した。県ユネスコ協会、公民館、自然保護団体など所属する活動母体における活動をｅラーニング教材化できたことは、ある意味教材制作の原点に回帰でき重要であった。そして、前述の教材制作等について、北陸 3 県ごとのユニット会議の設置や県別交流会等の推進においても、先行事例を委員会に於いて共有してきた。

（９）ｅラーニング教材（実践編）制作協力校及び協力者への感謝状贈呈

今年度もｅラーニング教材（実践編）制作協力校及び協力者に対して、北陸 ESD 推進コンソーシアムから、その労を労い感謝状を贈った。

（10）開発した SDGs・ESD を進めるｅラーニング教材（実践編）の全国的周知及び成果の発信

① 北陸 ESD 推進コンソーシアムのウェブサイト（HP）、フェイスブック及び YouTube チャンネル「北陸 ESD」での公開と加盟団体等への周知

② 2022 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会を 2 月 11 日（土）に開催し、文部科学省や ESD 活動支援センター（全国・地方）、全国の ESD 活動拠点、ESD 学会、ESD-J、ACCU、大学や小中高等学校関係者に向けて発信するとともに、リンクしていただく。

③ 開発したｅラーニング教材（実践編）を全国の ESD 活動支援センター（全国・地方）や ACCU、ESD-J、各地のコンソーシアムでリンクしていただく。

④ 金沢 SDGs パートナーズ交流会で北陸 ESD コンソーシアムの取組を、ｅラーニング教材制作を中心に報告した。

⑤ 日本 ESD 学会において、ｅラーニング教材制作、オンライン講座（試行）等の北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動等について発表した。

⑥ 日本教育メディア学会において、ｅラーニング教材制作、オンライン講座（試行）等の北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動等について発表した。

⑦ 全国 ESD コンソーシアム/ステークホルダー交流会 2023 において、北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動を発表した。

⑧ SDGs・ESD　ｅラーニング教材（実践編）制作協力校を所管する教育委員会や校長会などの関連団体への周知

⑨ 北陸で展開する SDGs 未来都市へ、活動予定及びｅラーニング教材関連文書等を送付した。（首長部局と教育委員会）富山県、富山市、南砺市、輪島市、珠洲市、金沢市、白山市、能美市、小松市、加賀市、福井県、鯖江市

⑩ 文部科学省に e ラーニング教材及びその対象となった教育実践を紹介した。

（10）北陸 ESD 推進コンソーシアムの YouTube チャンネル「北陸 ESD」の周知

e ラーニング教材を公開している YouTube チャンネルを、発出する文書で紹介し北陸 ESD 推進コンソーシアム HP とリンクさせると共に各連携団体の HP ともリンクするなどして周知を図った。

２．ESDコミュニティ創生支援事業

令和4年度は、管理職を含む教員等が主体的に専門性開発を開発することを支援する次の3つを軸にコミュニティ創生の準備期として取り組んだ。

① eラーニング教材制作協力者を中核としたSDGs達成に向けたESDの授業実践を学び合う授業者や研究者、学生等の開かれたコミュニティ

これまでのeラーニング教材制作と集積した教材によって、コミュニティ参加者等が目的的に学べるオンデマンド型のコースづくりが可能になりつつあるが、ライブで参加者がESD実践や研究成果等の講義を受けたり、実践上の課題等を相談したりできるような仕組みとして、ライブのオンライン講座（ゼミ）を試行した。次の「３．ESD・SDGsオンライン講座」で詳しく述べるが、ESD・SDGsに関する専門家を講師に迎え、講義とディスカッションを組み合わせた講座を4回試行した。また、講義の部分はeラーニング教材化して後から視聴できるように準備した。

今回は、土曜日の夕刻と金曜日の夕刻に予定して、講師は大学教員3名、元国連大学関係者1名、時間は講義45分ディスカッション45分で開催し、事後のアンケート結果からも手応えも感じた。しかし、参加者は延べ60名程にとどまった。現職教員の参加が難しい様子で参加者の1割程度であった。参加者へのアンケート調査からは、講座内容や講座時間については100％の評価をいただいたが、日時等の設定面など運用について改めてニーズや要望等について調査する必要を感じた。また、受講証明書の発給など受講したことのメリットを感じる仕組みや講座シラバスの事前公開なども考慮する必要性が高いと感じた。

② 北陸3県における児童生徒がESD学習に関して交流したり成果やデータを報告・共有したりする児童生徒のコミュニティ

コロナ禍、北陸の各県で行われている児童生徒の発表会、交流会については、何とか継続できている。北陸以外の児童生徒のゲスト報告を依頼するなど開かれた環境を作ってきている。しかし、コロナ後の交流会については、教員の働き方改革や保護者等への公開など、教育委員会との調整の必要性を感じた。また、学習過程の中で恒常的、定期的に学校や行政区域を越えて児童生徒が互いの情報を交換・共有したり、学び合ったりできるようなコミュニティについては、教育委員会が進めるGIGAスクール構想の中で計画されている自治体もあることから、連携を模索する必要があると考えている。

③ 北陸のSDGs未来都市における人材育成について学び合い交流するコミュニティ

来年度には、北陸の SDGs 未来都市に認定されている 12 都市における教育委員会や学校、

教員などの取組が交流・共有され連携する「未来都市教育フォーラム」のようなプラットフォームが整備されることが重要であることから、北陸 ESD 推進コンソーシアムから情報提供を継続するとともに、金沢市が主催した「第 2 回北陸 SDGs 未来都市フォーラム」においてもその趣旨の意見表明をしてきており、その必要性については各都市においても認識が共有されつつある。

３．ESD・SDGs オンライン講座（概要及びアンケート結果については P11 を参照）

今年度は、ESD・SDGs に関する専門家を講師に迎え、講義とディスカッションを組み合わせた講座を 4 回試行した。また、時間としては 90 分とし、講義の部分 45 分と講師と参加者が質疑応答、意見交換するディスカッションの部分 45 分として基本的には行った。合わせて、講義部分は 12 分前後で幾つかに分割し e ラーニング教材化して、後から視聴できるように準備した。

今回は、参加対象を北陸 ESD 推進コンソーシアムの会員、e ラーニング教材制作者及び関係者に限定して開催した。参加者は 62 名程であり学生の参加や卒業し起業した方の参加もあった。ただ、現職の教員の参加が 1 割程度にとどまり残念であった。周知方法や講義の開催時期、開催曜日及び時間帯の設定など問題点を洗い出す必要を感じている。

受講後のアンケートからは

・全員が試行した講座に満足を示していることが分かった。

・前半の講義内容も講師の個性があふれ聴き応えがあったと思われる。

・後半のディスカッションもざっくばらんな質疑応答、意見交換が出来ており、和やかな雰囲気であった。

次年度の試行 2 年目に向けて手応えを感じている。

また、専門業者による運用面での技術的なサポートは有効であり、既存の e ラーニングシスムを利用し、コース設定や運用の可能性を確認できた。

４．SDGs の達成という観点に立った北陸の教員養成

今年度も、コロナ禍や働き方改革などの影響から、教育委員会は研修を削減し学校はコロナ対応に追われ校内研修会を開催することが難しい状況であった。そこで、オンラインによる研修機会とともに、昨年度確認された e ラーニング教材制作プロセスにおける研修効果を、今年度も充実することとした。

・SDGs・ESD 研修の工夫

① 研修の個別化：e ラーニング教材（実践編）の制作に協力いただく学校や先生方、教育委員会ごとに、教材化する方法や教材化する教育実践などについて、個別に助言等の支援を行った。

② e ラーニング教材制作プロセスにおける研修機会（研修の共同化）

③ オンラインによる研修の開催：コンソーシアムのコーディネーターが講師となって開催

された研修会とともに、交流会や報告会などをオンラインで開催し、例年通りの研修機会を提供できた。また、オンラインになることで、北陸以外からの参加があったことから、コロナ禍が収まった後も対面とオンラインのハイブリッドとなると予感した。

④ 主な研修（制作協力校や協力者との個別研修は除く）

・ SDGs の達成に向かう e ラーニング教材制作協力者の交流会(8/19)
・ 2022 年度　北陸ユネスコスクール交流会（12/3）
・ 2022 年度石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会（1/21）
・ その他小規模な研修会

コーディネーター等を派遣するなどして開催された研修会の開催回数

◦e ラーニング教材関連研修 13 校　延べ 32 回

◦e ラーニング教材関連以外 9 校　延べ 18 回

⑤ 研修機会を創出・支援するコーディネーター

今年度も収まらないコロナ禍にあって、外部の者の学校訪問自体が難しい状況が続いたが、SDGs・ESD 推進検討委員会の委員やコンソーシアムのコーディネーターが、参観や参画する機会を昨年度に続いてつくれたことは成果であった。

主な実績

・ 富山市教育委員会が主催する「SDGs・ESD 富山シンポジウム」に企画・運営に協力した。
・ 南砺市立保育園 10 園での自然観察会（日本自然保護協会が南砺市と板橋区で試行している自然観察会）に指導員で参加、協力した。
・ 珠洲市主催の「生き物観察会の報告会（参加者：全小中学校の 3，4 年生全生徒及び担当教員、保護者)」(午前)、「SDGs 学習報告会（対象：全小中学校の小 5，6 年生と中 1，2，3 年生全員)」(午後）に参加し講評する。
・ 「金沢 SDGs」パートナーズ交流会に参加し、北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動報告を行う。
・ 北陸 SDGs 未来都市フォーラム（参加者：未来都市 12 都市の担当者複数名及びパートナー等：60 名）に参加し、分科会討議で意見表明を行う。
・ SDGs 子どもフォーラム in Kanazawa（金沢市教育委員会主催のフォーラムにおいて講演を行う。(対象全小中学校の代表 2 名と担当教員数名：300 人規模)
・ 小松市における生涯学習としての SDGs 学習（生涯学習の講座での講義も含めて、講座や児童生徒の学習発表会等の企画や運営について相談を受けている。)
・ 能美市 SDGs 子どもサミット等の企画、運営などに参画。
・ 福井県勝山市教育員会主催の ESD 担当者会での来年度に向けた新たな方向性を考えるための研修への講師として参画した。
・ 教員等を目指す大学生や大学院生が ESD を実践する学校現場を取材するという、自主的な学習の場を生み出していた。また、一方で取材を受ける教員もまた学生の問いかけなどを通して、自分の実践を見直す契機となっていたと感じた。

■北陸3県のユネスコスクールや大学、教育委員会、企業などで実施している SDGs･ESD に関する大学生や教員、社員、地域住民等に向けた講義や研修会・講習会等記録

北陸 ESD 推進コンソーシアムの会員団体等を対象に、アンケート調査を行った。回答は北陸のユネスコスクールを中心に 35 団体から寄せられた。

＜大学＞

金沢大学、富山大学、福井大学、金沢学院大学、金沢星稜大学、富山国際大学等において、例年通り一般教養・共通教育や教職大学院等で複数回の授業が実施された。

＜小中学校＞

- 石川県金沢市立小中学校において総合的な学習の時間・理科・金沢ふるさと学習などで内部向けに 112 回以上実施
- 富山県富山市高岡市小中高校において ESD 授業実践授業･研修などを内部向けに 36 回以上、外部向けに 6 回実施
- 福井県勝山市坂井市小中学校において授業・体験活動・研修などを内部向けに 176 回、外部向けに 1 回実施

＜教育委員会＞

富山県教育委員会　未実施　　勝山市教育委員会　外部向け 3 講座 42 人以上

＜その他＞

北陸電力　内部向け 18 講座、外部向け 37 講座　延べ 1,175 人

公益社団法人大学コンソーシアム石川　内部向け 3 講座 17 人、外部向け 1 講座 30 人

富山ユネスコ協会　内部向け 2 回延べ 60 人、外部向け 16 回延べ 425 人

キゴ山ふれあい研修センター　未実施

＜寄せられた回答の今後の課題から＞

- SDGs・ESD について、他校との連携や市全体の共通理解を深めることが重要である。
- コロナ禍での開催形態の工夫が必要である。
- 各学校で実際の取組に取り入れることができる情報提供が重要である。
- 学校の教育課程における計画・内容の立案・実施、授業時数の面において、教員の業務負担が増えることや他の教育活動とのバランスを図っていくことが課題である。
- ESD に関しては､あまり浸透しておらず､ざっくりしていてわかりづらいところがある。
- 学校・行政との連携強化や他の NPO や企業との連携を図り、多くの人が参加できる研修会を開催することが重要である。

5．周知普及とフィードバック

○北陸での周知普及

コンソーシアムの活動で得られた成果を第一義的には、北陸内で共有するための場を例年通りオンラインで設け、成果物や活動の紹介やフィードバック情報を共有した。

- 令和 4 年度第 1 回北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会
- 令和 4 年度第 2 回北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会

・　2022 年度 e ラーニング教材制作者交流会
・　2022 年度北陸ユネスコスクール実践交流会
・　2022 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会
・　その他の活動（各県ユニットごとの活動）
　　SDGs－ESD 富山シンポジウム
　　石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会

○全国規模、北陸以外で開催される学会、大会、交流会等への参加及び発表、報告
・2022 年度珠洲市「SDGs 学習取組報告会」及び「生き物観察会の報告会」（2022 年 11 月 12 日）に講評者として参加
・2022 年度日本 ESD 学会（2022 年 11 月 11 日、12 日）で実践報告
・2022 年度日本教育メディア学会（2022 年 11 月 26 日、27 日）で課題研究発表
・ユネスコスクール全国大会（2023 年 1 月 22 日）に参加
・第 2 回北陸 SDGs 未来都市フォーラム（2023 年 1 月 27 日）に参加
・G7 富山・金沢教育大臣会合記念「SDGs 子どもフォーラム in Kanazawa」（2023 年 1 月 28 日）に講演者として参加
・信州 ESD コンソーシアム成果報告会（2023 年 2 月 3 日、4 日）に講評者として参加
・全国 ESD コンソーシアム交流会（2023 年 2 月 17 日、18 日）に参加し活動報告

6．本事業の外部評価

（1）外部評価導入の理由：
文部科学省からの補助金を活用する事業の質的向上を図るため、事業計画に外部評価の実施を明記した。
（2）評価対象事業
令和 4 年度ユネスコ活動費補助金：SDGs 達成の担い手育成(ESD)推進事業
（3）外部評価委員

ESD-J	鈴木　克徳
奈良教育大学	中澤　静男
信州大学	水谷　瑞希

（4）外部評価時期と方法（省略）
（5）外部評価の活用
2 月 11 日の報告会における自己評価及び外部評価については、事業結果説明書及び次年度の企画書作成に反映させる予定である。
（6）外部評価の概要

1．全般的評価：長年にわたる ESD 活動を踏まえた多面的な展開
● 「継続は力」と言われるが、北陸地域において長年にわたり継続的に ESD・SDGs の周知普及を実施してきた実績を踏まえて活発な活動を展開していることは高く評価される。その成果は、北

陸地域での ESD 定着の確固たる基盤を築いている。今年度に 13 ものｅラーニング教材が作成されたのは、そのような基盤があったからと推測される。

- このコンソーシアムは、大学等高等教育機関、教育委員会、ユネスコ協会を中心としてユネスコスクールへの支援に取り組み始めたが、近年においては自治体首長部局、各種 NPO・NGO、公民館や美術館をはじめとする社会教育施設、病院、民間会社等大変幅広いステークホルダーを巻き込むマルチステークホルダーのネットワークに成長していることも高く評価される。
- 個別の学校というような点に対するアプローチだけではなく、北陸一円の学校その他に面的に展開するよう心掛けていることもこのコンソーシアムの大きな特徴である。特に、100 を超える北陸のユネスコスクールに対して、事前申請への指導助言だけでなく、適時のコミュニケーションと支援を行っている点は特記されるべきと言える。そのような活動を支えるために、北陸 3 県で 10 数名のボランティアに近い形での ESD 推進コーディネーターによるきめの細かい支援が継続的に行われている点も注目に値する。
- また、補助金によるｅラーニング教材の開発等のみにとどまらず、北陸 ESD 推進コンソーシアムでは、北陸 ESD 推進連絡協議会を通じた 3 県のステークホルダー間の情報・意見交換の実施、さらには、富山、石川、福井各県でのユニットによる県内の関係ステークホルダー間の緊密な連携・協力等、多様な活動により SDGs、ESD のステークホルダー間の連携・協働の推進に貢献している点も高く評価できる。
- 今年度から始めた新たな取組も今後の発展が大いに期待される。具体的には、「SDGs 達成に向けた ESD を学ぶオンライン講座」、「ESD コミュニティ創設事業」等である。これらは、まだ試行段階、あるいは端緒に着いた段階であるが、さらなる発展に向けた重要な一歩になると期待される。
- 北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動の全国への周知・普及という面でも着実な進展が図られつつある。北陸地域内での普及から、日本 ESD 学会、日本教育メディア学会、HESD フォーラム、全国 ESD コンソーシアム交流会等での発表、文部科学省によるユネスコスクールガイドブックでの紹介等により、全国的な認知が大いに進んだと評価される。今後のさらなる周知普及が期待される。

２．<u>今後に向けた課題</u>

(1) ｅラーニング教材の一層の活用に向けた検討

- これまでに、北陸では基礎編 2 件、応用編が 19 件のｅラーニング教材が作成され、今年度はさらに 13 件作成されつつある。それらは、多方面の多岐にわたる取組をまとめており、補助教材として大きな潜在価値を有すると考えられるが、今後一層活用するためにいくつかの改善点があると考えられる。
- 毎年度作成されるｅラーニング教材が有用であり続けるために、必要に応じ、その後の進展を踏まえたアップデートやフォローアップを行うことが期待されるので、そのための仕組みづくりが望ましい。
- 様々な主体を巻き込んだ様々な内容のｅラーニング教材が作成されていることは大変素晴らしい。他方、本来教材の中核となることが期待されるカリキュラムマネジメント関係の教材作成への取組が強化されることが望ましい。

- テーマ的には、世界的に大きな課題になっている気候変動や生物多様性の喪失、平和と民主主義などに取り組む事例の集積などにも取り組むことが期待される。
- e ラーニング教材に取り組んだ当初の目的は、独立して視聴される回数を増やすことではなく、それらの教材が研修等の補助教材として活用されることであった。e ラーニング教材の活用方策として、単に視聴を奨励するだけでなく、様々な研修の場において、多様に教材の中から適宜その研修に適した教材を補助教材として用いるような活用方策が推進されることが期待される。
- 今年度の終了時点で e ラーニング教材の総数は 30 件を超えることになる。現在は、e ラーニング教材は北陸 ESD 推進コンソーシアムのウェブサイトに作成年度別に表示されているが、そのままでは全てを視聴しないと何が自分の関心・ニーズに合ったものかの判別ができない。教材をカテゴリー別に整理することにより、又はそのような表を作成・表示することにより、アクセスする者にとっての使い勝手が大幅に改善すると思われる。
- e ラーニング教材のさらなる活用に向けては、オンライン講座で、e ラーニング教材の活用方法に関する講義を行うとか、開発した e ラーニング教材を活用した講義を行うなども考えられる。オンライン講座をこれまでの活動成果と切り離すのではなく、これまでの成果を一層活用するための機会として活用することも期待される。

(2) 各種開催イベントへの参加者数の増加に向けた努力

- 北陸 ESD 推進コンソーシアムでは、多くの優れたイベントが行われているにも拘わらず、最近はそのようなイベントへの参加者数が少なくなっている。原因としては働き方改革をはじめとする様々な要因が考えられるが、教育委員会や個別校とのコミュニケーションの強化、年間の早い段階での年間スケジュールの提示などの工夫を行うことにより、求心力の回復を図ることが急務と考えられる。
- 今年度は、コンソーシアムの成果報告会、北陸ユネスコスクール実践交流会、石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会のようなイベントが開催された。それらのイベントでは、共通して数多くの事例が発表されている。1 回のイベントに多数の発表を組み込むことにより、事例発表に多くの時間が割かれ、結果的に、相互に議論し、意見交換を行う時間が十分に取れなくなっている。1 回のイベントでの発表件数を限定することにより、より多くの時間を討議・意見交換にあてることが可能になり、参加者の学びが進み、満足度も上がると推測される。
- 他方、イベントの数を増やすことは必ずしも参加者数の増加には結びつかない。むしろ多忙な学校教員等の参加意欲をそぐことにもなりかねない。対策としては、例えばこのイベントのテーマはカリキュラム・マネジメント、このイベントのテーマは社会教育施設との連携といったように、それぞれのイベントの狙い・メインテーマを明確に示し、焦点化することにより、自分の関心の高いテーマに絞って参加することが可能になるような工夫が期待される。
- 今年度から始めたオンラインセミナーに関しては、戦略性を持ったテーマ設定を行うことが望ましい。特に、これまでの成果をより活用できるようなテーマ設定をまずは考えると参加者の増加につながると考えられる。これまでに作成された多くの e ラーニング教材の使い方に関する講習や、具体的に特定の e ラーニング教材を補助教材として用いた研修なども、e ラーニング教材の活用拡大に向けて有益かもしれない。

(3) 周知広報のさらなる充実

- eラーニング教材をはじめとして、北陸で進められている様々な先進的取組を幅広く国内の関係者と共有することが非常に重要である。前述のとおり、近年、そのような努力は着実に進んでいると評価できるが、更なる努力が期待される。特に、全国のユネスコスクールへの周知が期待されるところ、例えば近畿コンソーシアム等と同様に、ユネスコスクール公式ウェブサイトに北陸ESD推進コンソーシアムのサムネイルを掲示していただき、そこから北陸ESD推進コンソーシアムのウェブサイトへのリンクを貼ることにより、容易にeラーニング教材にアクセスできるようにすることが期待される。

令和4年度ユネスコ活動費補助金：SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業に関して、次の3点より考察を加えたい。1つ目にESDの授業実践における重要ポイントについて、2つ目にeラーニング教材を用いた研修について、3つ目が学校外のステークホルダーへの広がりについてである。

ESDの授業実践における重要ポイントについて：

今回の成果報告会での実践報告から、①体験的な学習の重要性、②人と出会い人から学ぶ重要性、そして③学校内にとどまらず、学校外で現実を学ぶことの重要性を抽出できた。インターネットを用いた学習は便利であり、児童性一人一端末の現代には適した学習であろう。しかし、ESDは学習内容の理解を促すだけにとどまらず、学習者の価値観と行動の変革を促す教育である。社会の現実を教材化し、そこでの人の営みにふれることによる「あこがれ」が、児童生徒の行動変容をもたらすことから、手間はかかるけれども、人との出会いを学習活動に位置付けることは重要であろう。

eラーニング教材を用いた研修について：

コロナ禍の影響で、この2年間、対面式の研修は大きな影響を受けたが、北陸ESD推進コンソーシアムでは、当初よりeラーニング教材の開発に注力されてきたことは十分に評価できる。北陸ESD推進コンソーシアムのHPには、eラーニング教材（実践編）として2020年度に9本、2021年度には18本の作品が掲載されている。まだまだテーマ別にカテゴライズできる状況ではないが、この実践が蓄積されていくことで、初めてESDに取り組む全国の教員にとって、コースガイド的な役割を果たすことは間違いない。一方で活用の仕方が教員任せになっており、eラーニング教材を教員研修に活用できているとは言い難い。オンライン教材の利点を生かし、制作した教員を核とした座談会的なオンライン意見交流の機会を設けることで、ESDを実践する教員やステークホルダーのネットワーク化、さらなるeラーニング教材の創出につながるのではないだろうか。

学校外のステークホルダーへの広がりについて：

今年度の成果発表において、富山ユネスコ協会による「平和の鐘を鳴らそうin上行寺」、金沢21世紀美術館の「金沢21世紀美術館オンラインツアー」、株式会社ガクトラボと金沢大学の大学生の連携による「大学生目線で作成した、金沢市立小中学校のESD実践事例動画“大学生が行くESDたんけん！”の報告」があった。この3つの報告を視聴して気になったことは、実践が「説明-納得型」であることである。学校教育においては、主体的対話的で深い学びを展開する上で、発問を重要視しており、質の高い問いを続けるという「発問-対話型」となっていることはESDにおいても同様である。学校外のステークホルダーと連携し、現実の社会を教材化することは意義がある。それは認めつつも、知識・技能重視の「説明-納得型」から思考力・判断力・表現力重視の「発問-対話型」の実践を展開できるよう、学校教員とステークホルダー両方を対象とした研修の実施が求められる。

以上、e ラーニング教材の創出と活用は、北陸 ESD 推進コンソーシアムの大きな特徴である。今後も ESD における e ラーニング教材開発拠点としての取り組みを期待したい。

ユネスコ活動費補助金（SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業）について、事業内容を大きく 2 つに分けて評価する。

「SDGs 達成に向けた e ラーニング教材（実践編）の開発」は先進的な取り組みであり、学校研修での活用が期待できる。しかし、学校研修で e ラーニング教材を有効に活用するためには、単にオンライン教材を公開するだけでなく、各学校のニーズや状況に応じてそれらの教材を選択し、あるいは他の種類の研修課程を組み合わせるなどして、学校支援や研修のメニューを構築する必要があると思われる。この際には、各学校の研修等を支援するコーディネーターの役割が重要であり、またそれらが有効に機能するモデルを検討する必要がある。また本事業では、e ラーニング教材作成者を公募により決定することを掲げているものの、実際には学校からの自発的な応募は少なく、コンソーシアムからの依頼により作成していることから、事業の仕様には一部、検討の余地がある。コンソーシアムのコーディネーターが、e ラーニング教材として適切な内容や実践を地域の実践校から選び、教材作成を依頼したという説明であっても、本事業の正当性はなんら損なわれるものではないと思われる。

また「ESD コミュニティの創生」については、オンラインで教育実践報告会などが複数回開催されたこと、また多様なステークホルダーが参画していることについて評価できる。オンラインによる開催は、離れた地域からも参加しやすく、e ラーニング教材作成との連携も有効であったと思われる。しかし、各イベントの参加者が少なく、また毎回同じようなメンバーが参加していたことは、課題として挙げられる。コミュニティの成長には、深化と拡大の 2 つの方向があるが、このうち深化の部分において，本事業の取り組みは有効に機能していると思われるが、拡大についてはとくに学校関係の新規参加者の獲得が課題であり、今後はコミュニティ内での人材育成や新たな人材の発掘など、拡大に向けた方策の検討が必要だろう。

SDGs 達成に向けた e ラーニング教材の普及は、近年ますます重要性が高まっており、本事業にはその推進のモデルケースとなることが期待される。またコミュニティの創出についても、多様なステークホルダーとの連携に加え、学校関係者への普及・拡大に向けた様々な取り組みが求められる。

次に北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動についての評価は以下の通りである。本コンソーシアムは 2014 年の正式発足以前から、北陸地域で継続的に ESD/SDGs 実践を多面的に支援している。大学等高等教育機関、教育委員会、ユネスコ協会が連携して取り組む、いわゆる北陸方式により、活動を北陸一円に面的に展開していることは、本コンソーシアムの特徴である。また本コンソーシアムは、北陸 ESD 推進連絡協議会をはじめとする複数の地域連携の枠組みを通じて、富山、石川、福井各県におけるユニットの構築による関係ステークホルダー間の連携・協力を推進するとともに、ユネスコスクール支援大学間ネットワークを通じたユネスコスクールへの支援活動等、多様な活動により、北陸地域における ESD/SDGs の推進に大きく貢献している。これらの活動実績は、ユネスコ活動費補助金事業のうち「ESD コミュニティの創生」を実施する背景として重要であったと想像される。

しかし、ユネスコスクールの在り方が変わり、また学習指導要領の改訂により ESD がすべての学校で取り組まれる教育課程となった現在、ESD コンソーシアムに求められる役割も変化している。北陸 ESD 推進コンソーシアムには今後も、長年にわたる ESD 活動の実績を踏まえ、地域の特性を踏まえた

多面的な展開を継続していくとともに、新たな状況に対応する取り組みを創出することにより、今後も持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進め、地域の発展に貢献していくことが期待される。

７．本事業の総括と展望

今年度は、「SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発及びコミュニティづくりによる教員等の専門能力開発」事業 3 年計画の初年度であった。3 年間で、

・SDGs 達成に向け ESD を実践しようとする教育委員会や学校の教員等を対象とした e ラーニング教材（実践編・教育経営編）の開発・活用を進めること

・そのプロセスにおける研修機会の創出と主体的な研修システムを構築し、開発した教材や研修システムの全国的な展開を図ること。

・e ラーニング教材制作者を中核に教員や学生・院生、研究者等が学び合うコミュニティを教員等の主導で形成すること

などの主要 3 事業によって、ホールスクールアプローチに向けたカリキュラムマネジメント力や教育経営力など教員等の専門能力開発と、SDGs 達成に向けた ESD の授業実践により「開かれた教育課程」「探究的な学習」の実現に貢献するとともに、成果を全国に発信し、SDGs の達成に向けた人材育成の優良事例として本事業の周知を図ることとしている。

初年度の 2022 年度は、昨年度までの 3 年計画の事業を土台に、

・e ラーニング教材制作（実践編）が順調に制作され、加えて（教育経営編）の制作に着手できた。また、社会教育に加え幼児教育にも教材作成対象を広げることができた。

・教材制作プロセスにおける研修機会の創出や、主体的な研修システムの構築に向けた準備としてオンライン講座の試行や、既存の e ラーニングシステムでコース設定や運用についての検討が進んだ。

・これまでの e ラーニング教材制作協力者及び関係者を中核に、オンライン講座参加者を加えながら学び合うコミュニティの準備が進んだ。

などの成果があったが、幾つかの問題点や課題も明らかになった。また、参加した「全国 ESD コンソーシアム/ステークホルダー交流会 2023」で北陸 ESD 推進コンソーシアムが、トータルな教育分野におけるプラットフォームとして、全国のコンソーシアムと連携を強め活動を広げていくための初年度ともなった。

【成果】

〇SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発

・今年度は、ESD の実践を目指す教員や学生のプラットフォームづくりの一環として、8 月に e ラーニング教材制作協力者交流会を開催し、一昨年度、昨年度と今年度の制作協力者が一堂に会して、自身の授業実践や教材作りに関する情報交換と、今年度のオンライン講座の試行についても共有することができた。

・e ラーニング教材（実践編）を 15 本制作し公開できたことも大きな成果であった。

教材①（SDGs・ESD を推進するホールスクールアプローチにおけるカリキュラムマネジメントや校外の諸団体とのパートナーシップ確立の教育実践を内容とし、教育（学校）経営力

の育成に資する。）が 5 本
教材②（SDGs 達成に向けた ESD による探究的で対話的な授業への革新を目指す授業実践のプロセスを内容としカリキュラムマネジメント力の育成に資する。）が 1 本
教材③（学校と社会教育施設や企業、専門機関等と連携した SDGs・ESD に関わるプログラム開発によるホールスクールアプローチの教育実践のプロセスを内容としてカリキュラムマネジメント力、教育経営力の育成に資する。）が 4 本
教材④(SDGs 達成に向けた ESD を進めるホールスクールアプローチの教育実践と、そこに向かうプロセスの実際を内容として、学校管理職等の教育経営力の育成に資する。）が 3 本
教材⑤（教員を目指す学生や大学院生が、学校現場で進む SDGs 達成に向かう ESD の教育実践や実践者に学び、その過程を e ラーニング教材化することで、SDGs 達成に向かう ESD の意義や価値を深く理解する取組を内容として、SDGs 達成に向けた ESD を進めるユース層の育成に資する。）が 2 本

このように、e ラーニング教材制作（実践編）が順調に制作されたことの意味は大きい。

・加えて SDGs 未来都市となっている珠洲市の取組を支援している能登 SDGs ラボとの連携を継続し、2 本の e ラーニング教材を制作することができたことは、今後の未来都市との連携を進める上でも重要であった。

・コーディネーター自身が自らの活動母体である県ユネスコ協会、公民館、自然保護団体における活動を e ラーニング教材化できたことは、社会教育に加え幼児教育における教材作成対象を広げることができたこととともに、ある意味教材制作の原点に回帰でき重要であった。

・また、教育委員会担当者と校長による e ラーニング教材（教育経営編）の制作に着手できたことも特筆できる。

・そして、昨年度コロナ禍ということで叶わなかった金沢大学の学生・院生が、金沢市立小学校、中学校それぞれ 1 校に取材に入り、教育実践を e ラーニング教材化することができたことは大きく、来年度の広まりと深まりが期待できる。

○ESD コミュニティ創生支援事業

令和 4 年度は、管理職を含む教員等が主体的に専門性開発を開発することを支援する次の 3 つを軸にコミュニティ創生の準備を進めてきた。

①：「e ラーニング教材制作協力者を中核とした SDGs 達成に向けた ESD の授業実践を学び合う授業者や研究者、学生等の開かれたコミュニティづくり」については、

・e ラーニング教材制作と集積した教材によって、コミュニティ参加者等が目的的に学べるオンデマンド型のコースづくりが可能になりつつある。

・ライブで参加者が ESD 実践や研究成果等の講義を受けたり、実践上の課題等を相談できたりするような仕組みとして、ライブのオンライン講座（ゼミ）を試行した。

・オンライン講座（試行）では ESD・SDGs に関する専門家を講師に迎え、講義とディスカッションを組み合わせた講座を 4 回試行できた。

・また、講義の部分は e ラーニング教材化して後から視聴できるように準備した。

今回は、土曜日の夕刻と金曜日の夕刻に予定して、講師は大学教官 3 名、元国連大学関係者 1 名、時間は講義 45 分ディスカッション 45 分で開催し手応えを感じた。しかし、参加者は延べ

60 名程度にとどまった。現職教員の参加が難しい様子で参加者の 1 割程度であった。参加者へのアンケート調査からは、講座についての満足度は高く、更に学び合いたいことがあることも分かったが、設定、運用など面で改めてニーズや要望等について調査する必要を感じた。また、受講証明書の発給など受講したことのメリットを感じる仕組みや講座シラバスの事前公開なども考慮する必要性が高いと感じた。

②:「北陸 3 県における児童生徒が ESD 学習に関して交流したり成果やデータを報告・共有したりする児童生徒のコミュニティ」

・コロナ禍、北陸の各県で行われている児童生徒の発表会、交流会については、何とか継続できている。ただ、福井県については事情により中止となった。

・北陸以外の児童生徒のゲスト報告を依頼するなど開かれた環境を作ってきている。

・また、学習過程の中で恒常的、定期的に学校や行政区域を越えて児童生徒が互いの情報を交換・共有したり、学び合ったりできるようなコミュニティについては、教育委員会が進める GIGA スクール構想の中で計画されている自治体もあることから、連携を模索する必要があると考えている。

③:「北陸の SDGs 未来都市における人材育成について学び合い交流するコミュニティ」

・来年度には、北陸の SDGs 未来都市に認定されている 12 都市における教育委員会や学校、教員などの取組が交流・共有され連携する「未来都市教育フォーラム」のようなプラットフォームが整備されることが重要であることから、北陸 ESD 推進コンソーシアムから情報提供を継続するとともに、金沢市が主催した「第 2 回北陸 SDGs 未来都市フォーラム」においてもその趣旨の意見表明をしてきており、その必要性については各都市においても認識が共有されつつある。

〇ESD・SDGs オンライン講座（ライブ）　アンケート（P 11 参照）から見た成果

・受講したオンライン講座の内容について、100%が「とても良かった」「良かった」と回答し、非常に満足度の高い講座となった。

・今後の講座で学びたい内容について、SDGs 達成に向けた ESD の「教育実践（授業）の実際」「転換（進化・深化）する授業とは」「開発される教師の専門性、専門的能力とは」「カリキュラムマネジメントとは」「教育経営（学校・行政）の実際について」「授業における評価について」などが挙げられており、教育におけるトランスフォームの期待が見える。

・次に、今後講師として招聘したい方については「学校現場で授業実践を行う教員」「JICA などの国際協力関係機関の職員」「文部科学省や教育委員会などの教育行政等の職員」などが多かった。

・運営面について、講座の時間（90 分）は 80%が「適切」と回答したが、開講シーズン、開講曜日、開講時間については、回答にバラツキが多い。参加者が参加できた人であることからアンケートの回答に偏りも考えられる。開催頻度については 90%が「月 1 回程度」で半年から通年を望んだ。この結果も踏まえ来年度に生かしたい。

〇教員養成及び支援

・これまでに制作してきた e ラーニング教材の視聴が進んでいる。YouTube の北陸 ESD チャ

ンネルで公開している 2 年前の SDGs・ESD に関する e ラーニング教材（基礎編）2 本と 1 年前の e ラーニング教材（実践編）の 9 本、10 か月前の 10 本の視聴回数が、2023 年 1 月現在で合わせて 5200 回を超えており、利活用が年を重ねて進んでいることが伺える。校内研修や大学での授業、個人研修として利用されていることも報告を受けている。
・コロナ禍にあってカリキュラムマネジメントが難しい情況にありながら、e ラーニング教材制作を通して、SDGs 達成に向けた ESD の授業実践やカリキュラム開発が行われ、その制作と開発を支援できたことは特筆できる。
・国内、国外の学習交流や NPO などの団体や社会教育施設、保育園と連携した実践、これまで実施できなかった大学生や院生が ESD の学校現場を取材して教材作りを行うなど、昨年度にも増して多様な実践をカリキュラムマネジメントの観点で教材化できた。
・また、金沢市の 21 世紀美術館が行った金沢大学付属病院内学級向けのオンライン見学会の取組は、昨年度行われた院内学級向けのオンライン天体観望の実践を金沢 SDGs パートナーズ交流会で北陸 ESD 推進コンソーシアムのコーディネーターが報告したことから広がった試みであり挑戦である。全国の院内学級の教員や児童生徒を勇気づけることになると確信している。
・そして、今年度は北陸 ESD 推進コンソーシアムのコーディネーターが、自らの活動母体である県ユネスコ協会や公民館、自然保護団体の一員として活動したことを基に e ラーニング教材を制作したことも特筆できると考えている。コーディネーターもまた、自らの活動母体の活動を進め、教材化を経験することは原点回帰でもあり、非常に意義深いと考える。
・昨年度と同様に、本年度も授業や研修への参加・参画が進んだ。富山市教育委員会主催の SDGs-ESD 富山シンポジウム、南砺市立保育園の自然観察会や福井県勝山市の ESD 担当者会、金沢 SDGs パートナーズ交流会、能美市の SDGs 学習における企業・大学・北陸 ESD 推進コンソーシアムの連携、小松市の生涯学習における SDGs プログラム、珠洲市 SDGs 学習報告会などについて、参加・参画をしていることは、これまでの支援を広げたと言える。
・今年度の研修機会の創出状況をみると、報告があった会員 35 団体において 411 回の機会を提供し 2000 人以上に参加していただいており、e ラーニング教材制作プロセスにおける研修機会を除いた数字であることから、一定の研修機会を北陸において提供できていると考える。

〇周知普及

コンソーシアムの活動で得られた成果を第一義的には、北陸内で共有するための場を例年通りオンラインで設け、北陸 SDGs・ESD 推進連絡協議会（2 回）、e ラーニング教材制作者交流会（1 回）、北陸ユネスコスクール実践交流会（1 回）、北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会（1 回）、SDGs-ESD 富山シンポジウム、SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会などを主催し、教育実践や e ラーニング教材など成果物や活動の紹介やフィードバック情報を共有した。

今年度は、全国規模、北陸以外で開催される学会、大会、交流会等へも積極的に参加及び発表、報告を行った。

・2022 年度珠洲市「SDGs 学習取組報告会」及び「生き物観察会の報告会」に講評者として参加
・2022 年度日本教育メディア学会で実践発表

・2022 年度日本 ESD 学会で実践報告
・ユネスコスクール全国大会に参加
・第 2 回北陸 SDGs 未来都市フォーラムに参加
・G7 富山・金沢教育大臣会合記念「SDGs 子どもフォーラム in Kanazawa」に講演者として参加
・信州 ESD コンソーシアム成果報告会に講評者として参加
・全国 ESD コンソーシアム交流会に参加し活動報告

・今年度も連携団体と HP のリンクを貼るとともに、YouTube チャンネルとのリンクやフェイスブックとのリンクを通して情報を発信している。
・YouTube の北陸 ESD チャンネルで公開している、e ラーニング教材（基礎編）と e ラーニング教材（実践編）の視聴回数が進んでいる。2023 年 1 月現在でそれぞれ 2400 回、2800 回を超え合わせて 5200 回を超えており、周知が進んでいることが伺えた。
・校内研修や大学での授業、個人研修として利用されていることも報告を受けており高く評価できる。
・これまでの課題である北陸 ESD 推進コンソーシアムの活動や成果を外部に積極的に発表・報告することについては、今年度 2 つの学会、1 つの交流会での実践報告等を行った。
・また、今年度は石川県の 2 市から講演、講評の依頼、福井県 1 市から研修会への参画依頼があり、児童、生徒、教員、保護者を対象とした大型の周知イベントとなった。

【課題と展望】
〇SDGs 達成に向けた e ラーニング教材開発
・文部科学省によるユネスコスクールへの通知や ESD の手引き改定を受けて、北陸における SDGs 達成に向う ESD の授業の質の向上と深化を図るため、ESD や SDGs 学習の持つ魅力と可能性を感じる e ラーニング教材を制作する。
・ESD が質の高い教育の中核を担うことの理解を広げるためにも、SDGs 達成抜向けた ESD を進める授業実践のカリキュラム・デザインの中核を成す教科や単元等における「本質的な問い」や「セントラル・アイディア」などと称される中心概念を SDGs のゴールとの関連から明確にした授業づくりと、その授業づくりが授業の革新に迫り得ることを教材化する必要がある。
・今年度、うまく機能しなかった共通テーマ（ユネスコスクールのテーマ別重点事項）の募集について、実践例の紹介や教材紹介なども同時に行い、実践され応募につながるよう工夫する必要がある。
・「教育経営編」については、ホールスクールアプローチの取組につながるような実践事例が応募されるよう工夫したい。
〇ESD コミュニティ創生支援事業
・SDGs 達成に向けた ESD が進展する上で、それを志し担う教員の専門性の開発を、自発的で自律的に行えるよう教師が主導し協働するコミュニティづくりを支援するためにも、2023 年度の早い時期に北陸 3 県において、広範にアンケート調査などを行い、学校現場のニーズや働き方改革と研修機会の創出に関する現状把握を進めたい。

・一方で、教員研修の在り方が大きく変わろうとしていることから、北陸 3 県の教育委員会における教員研修に関する動向やニーズ等について調査する必要がある。
・オンライン講座については、これらの調査に基づき内容面、運用面に関する試行を積み重ねたい。運用面については、ID を取得した者が学び合う環境にするなど、技術的な試行も重ねたいと考えている。内容面では、コース設定、シラバスについても検討していきたいが、前提として SDGs 達成に向かう ESD を実践する教員が開発すべき専門性は何かについても検討を開始する。
・オンライン講座については、全国のコンソーシアムなどで、講座、講師、コースなどを共有、共用できるよう提案するとともに、連携可能なコンソーシアムなどと運用等について協力して試行する。
・教職を希望する学生や、地域興しや人材育成等に関心のある学生・院生が SDGs 達成に向かう ESD の魅力と可能性を実感できるよう教育現場取材型の e ラーニング教材を学生グループにより制作、発信することが更に重要であり、成果を中部 ESD 活動支援センターが主催する SDGs 学生サミット等で発表するなど工夫する必要がある。また、これらを通して学生・院生による「ESD for 2030 (SDGs)」（仮称）学生コミュニティの形成を図る。
〇教員養成及び支援
・e ラーニング教材制作やオンライン講座を進める中での研修機会を創出したり、学び合うコミュニティを創出したりするとともに、現職の教員と教職を目指す学生とが学び合えるよう工夫していきたい。
・「ESD for 2030(SDGs)」が質の高い教育の要であり、魅力的で可能性があることを教材制作やオンライン講座で伝えていきたい。
〇周知普及
・来年度以降、全国の ESD コンソーシアムと e ラーニング教材制作とオンライン講座の事業を共有、共用できるよう働きかけていきたい。
・そのためにも、今年度と同様、関連学会での発表を積極的に進める必要がある。また ESD 活動支援センターとの協力協同を積極的に進める
・外部への発信を強化するため、YouTube や SNS（Facebook 等）での発信の強化とホームページとのリンク、全国の ESD 活動拠点等とのリンク等を、これまで以上に進めたい。
・ESD を進める学校や幼稚園・保育園、社会教育（公民館・美術館等）、企業、NPO 法人などとの連携のみならず、ESD について支援を拡充する。
・北陸の 12 地域の SDGs 未来都市における教育分野の連携協力関係を構築するため、「第 1 回北陸 SDGs 未来都市の教育（ESD）フォーラム」（仮称）を企画、開催するとともに、SDGs 達成に向かう ESD の魅力を発信する。

【金沢大学：ユネスコ未来共創プラットフォーム事業】

令和 4 年度ユネスコ未来協創プラットフォーム事業
「ユネスコ未来協創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」での取組について

本事業では、ユネスコスクール加盟をめざす学校に対して、申請に向けての相談、ユネスコスクール制度や ESD/SDGs に関わる解説、実践やカリキュラムマネジメント等に関わる指導支援、報告書作成支援等を行った。

※なお、感染症の状況によりメール、電話等での連絡や情報交換等も行った。

以下、支援を担当した学校毎に本事業に関わる実績について述べる。

（1） 石川県立大聖寺実業高等学校（加盟申請指導支援、報告書作成打ち合わせ、2022 年 9 月 14 日・11 月 24 日訪問）
（2） 南砺市立平中学校（加盟申請指導支援、報告書作成打ち合わせ 、2022 年 10 月 19 日・12 月 15 日訪問）
（3） 国際高等専門学校（白山市）（加盟申請指導支援 、報告書作成打ち合わせ、2023 年 1 月 27 日訪問）

資料

・　e ラーニング教材（実践編）視聴後アンケート用紙(2022 年度用)

SDGs・ESD を進める人材育成
SDGs 達成に向けた ESD の e-ラーニング教材（実践編）に関するアンケート

北陸 ESD 推進コンソーシアム
（金沢大学附属教職総合支援センター内）

今後の活動や e-ラーニング教材等の改善に役立てていきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

1．視聴された方について
（1）職業等について
・職業人　・学生　・その他（　　）
（2）所属先（勤務先、在籍学校等）について
・幼稚園、保育園　・小学校　・中学校　・高等学校　・大学　・大学院
・行政機関　・企業　・地域、NPO、NGO などの団体等
・その他（　　）
（3）これまで SDGs や ESD について研修や授業など学ぶ機会はありましたか。
・複数回あった　・1 回あった　・全くなかった
（4）新学習指導要領には ESD や SDGs の考え方が反映されていることについて、研修や授業などで学ぶ機会はありましたか。
・複数回あった　・1 回あった　・全くなかった

2．視聴した e-ラーニング教材について
（1）北陸 ESD 推進コンソーシアムの HP や YouTube チャンネルで公開している「ＳＤＧｓ達成に向けＥＳＤ」に関する e ラーニング教材（基礎編・実践編）を、これまでに視聴したことはありますか。
・何度もある　・複数回ある　・1 度ある　・ない
（2）今回視聴した e-ラーニング教材（実践編）名を記入ください。
・学校名（　　県　　立　　学校）
・実践名（　　）
・実践者名（　　）
（3）今回視聴した e-ラーニング教材（実践編）は SDGs、ESD を進める上で役に立ちましたか。
・大変役に立った　・役に立った　・役に立たなかった　・全く役に立たなかった
（4）具体的にどのようなところが良かったですか。また、改善すべき点もありましたら記入ください。

良かった点
改善が必要な点

（5）今後の e-ラーニング教材の内容として、どのような内容が必要だと思われますか。
（複数選択可）
・SDGs、ESD に関する基礎知識
・SDGs、ESD の理論
・DX（デジタルトランスフォーメーション）や SX（サスティナブルトランスフォーメーション）に関わる実践や取り組み
・学校で行われている SDGs 達成に向けた ESD に関する教育実践
・校種別（幼、小、中、高）の教育実践
・学校全体でのホールスクールアプローチに関する教育実践
・管理職による学校経営的な取り組み
・教育委員会等による教育経営的な取り組み
・企業や民間団体、地域で行われている SDGs、ESD に関する実践
・諸外国の取り組み状況
・その他（　　）
（6）北陸 ESD 推進コンソーシアムでは、いつでも、どこでも、手軽に学べる e-ラーニング教材を HP 上に充実することで、教員や教員志望の学生が SDG s や ESD について学びやすくしていきたいと考えています。どのようなことに留意して進めたら良いか考えをお聞かせください。（複数選択可）
・SDGs、ESD に関する最新情報をホームページで提供する。
・SDGs、ESD に関する研修会や交流会などを開催する。
・北陸という身近な地域での SDGs、ESD の多様な実践を、実践者が紹介できる環境をつくる。
・SDGs、ESD の初歩的なことから e-ラーニング教材など実践に関することなどについて、専門家と質疑応答ができる環境をつくる。
・学生が学校など現場における SDGs、ESD の実践を取材し報告するレポート型教材を提供する。
・その他

ご協力ありがとうございました。

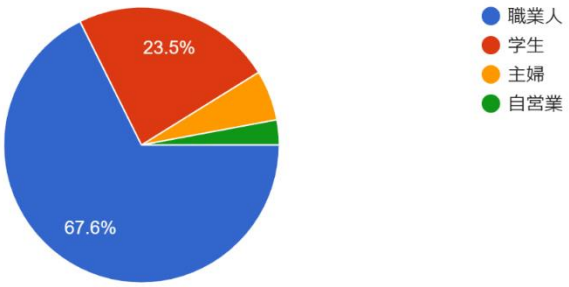
＊Google フォームで回答いただける方は、下記から入り記入ください。よろしくお願いします。

Google フォーム URL：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSebwksnq_2UzyrRThxeZ6dkZrrfop_GzsbIWLzOYfopJktQ7Q/viewform?usp=sharing

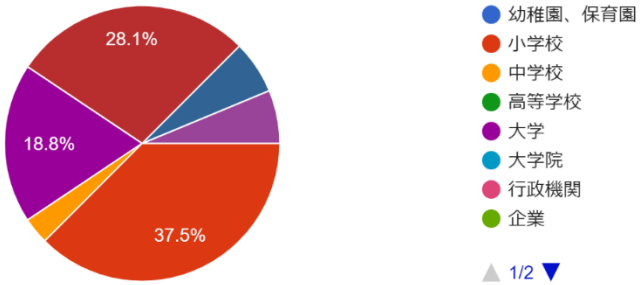
Google1 フォーム Q R コード：

・　アンケート結果（概要）

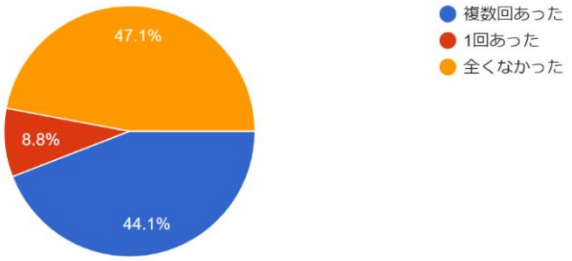
職業等について
34 件の回答



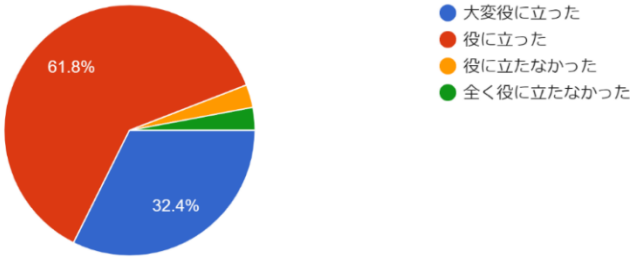
所属先（勤務先、在籍学校等）について
32 件の回答



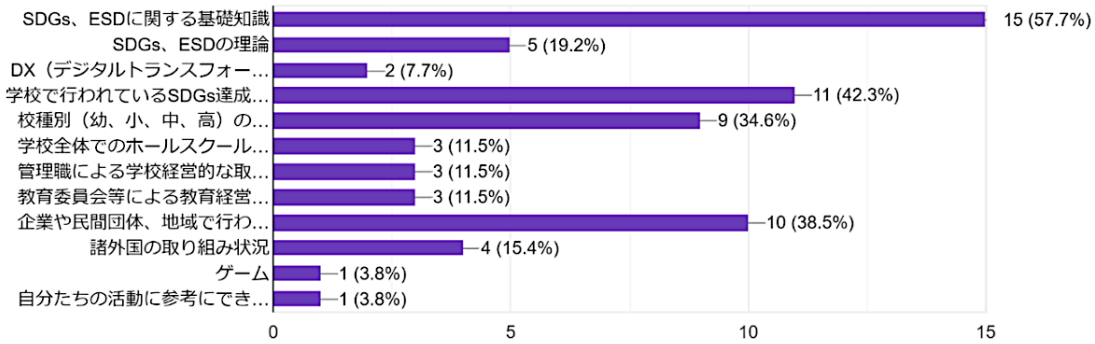
新学習指導要領にはESDやSDGsの考え方が反映...いて、研修や授業などで学ぶ機会はありましたか。
34 件の回答



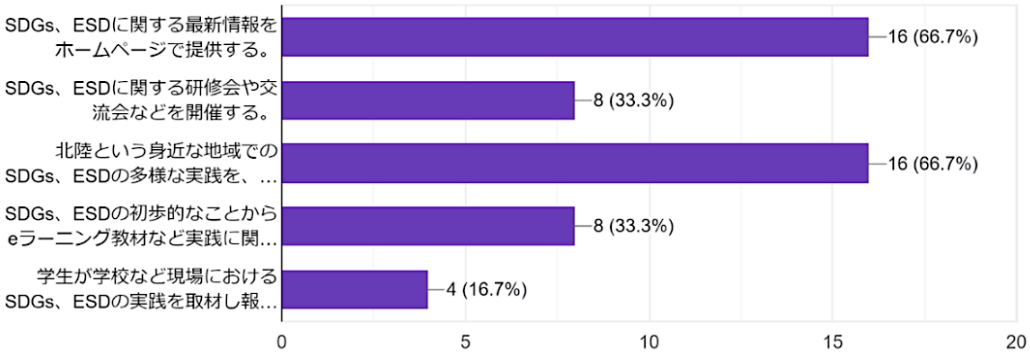
今回視聴したeラーニング教材（実践編）はSDGs、ESDを進める上で役に立ちましたか。
34 件の回答



今後のeラーニング教材の内容として、どのような内容が必要だと思われますか。（複数選択可）
26 件の回答



北陸ESD推進コンソーシアムでは、いつでも、ど...ら良いか考えをお聞かせください。（複数選択可）
24 件の回答



・　「SDGs 達成に向けた ESD」を学ぶオンライン講座（試行）講義の様子

第1回　講師：奈良教育大学　中澤　静男氏

第2回　講師：前国連大学OUIK　永井　三岐子氏

第3回　講師：金沢大学　加藤　隆弘氏

第4回　講師：南砺市教育委員会　松本　謙一氏

・　「SDGs 達成に向けた ESD」を学ぶオンライン講座（試行）アンケート用紙

「SDGｓ達成に向う ESD」を学ぶオンライン講座に関するアンケート

北陸 ESD 推進コンソーシアム
（金沢大学附属教職総合支援センター内）

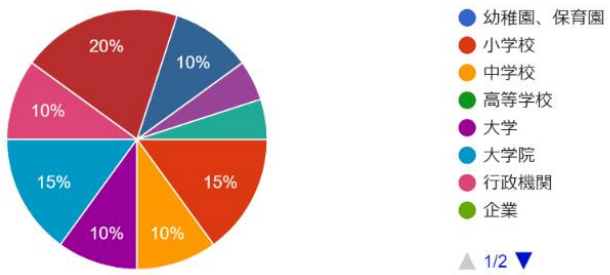
標記オンライン講座の内容や運営に役立てていきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

1．記入された方について
（1）職業等について（1 択）
・職業人　・学生　・その他（　　）
（2）所属先（勤務先、在籍学校等）について（1 択）
・幼稚園、保育園　・小学校　・中学校　・高等学校　・大学　・大学院
・行政機関　・企業　・地域、NPO、NGO などの団体等
・その他（　　）
（3）これまで SDGs や ESD について研修や授業など学ぶ機会はありましたか。（1 択）
・複数回あった　・1 回あった　・全くなかった
（4）新学習指導要領には ESD や SDGs の考え方が反映されていることについて、研修や授業などで学ぶ機会はありましたか。（1 択）
・複数回あった　・1 回あった　・全くなかった
（5）文部科学省が作成した「持続可能な開発のための教育（ESD）推進の手引き」を読んだことはありますか。（1 択）
・何度も読んだ　・一度読んだ　・知ってはいるが読んでいない　・手引きの存在を知らない
（6）北陸 ESD 推進コンソーシアムのｅラーニング教材は視聴したことはありますか。（1 択）
・複数回視聴した　・1 回視聴した　・視聴していない
2．「SDGｓ達成に向う ESD」を学ぶオンライン講座について
（1）今回受講した講座の内容について
①回答の対象とする講座を選択してください（1 択）
・第 1 回（9/30 実施済み）　・第 2 回　・第 3 回　・第 4 回　・第 5 回
②受講した講座の内容について（1 択）
・とても良かった　・良かった　・良くなかった　・全くよくなかった
③受講した講座の時間について（1 択）
・もっと長い方が良い　・適当な時間の長さで良かった　・もっと短い方が良い
（2）今後の講座で学ぶ内容について
①今後、この講座で学んでみたい内容について（複数選択可）
・なぜ今 SDGs・ESD なのか（基礎基本）
・SDGs とはなにか（基礎基本）
・ESD とはなにか（基礎基本）
・SDGs の 17 ゴールの一つ一つとその相互の関係について
・「SDGs 達成に向けた ESD」、「ESD for 2030」とは
・「SDGs 達成に向けた ESD」で転換（進化・深化）する授業とは
・「SDGs 達成に向けた ESD」で開発される教師の専門性、専門的能力とは
・「SDGs 達成に向けた ESD」の教育実践（授業）の実際
・「SDGs 達成に向けた ESD」におけるカリキュラムマネジメントとは
・ESD におけるホールスクールアプローチとは何か
・「SDGs 達成に向けた ESD」における教育経営（学校・行政）の実際について
・「SDGs 達成に向けた ESD」の授業における評価について
・その他（　　）
②今後講師として招聘したい方について（複数選択可）
・研究者（大学教員等）
・国連大学やユネスコなど国連関係職員等
・JICA などの国際協力関係機関の職員
・ESD 活動支援センターの職員
・学校現場で授業実践を行う教員
・ホールスクールアプローチなどの学校経営を行う校長等
・文部科学省や教育委員会などの教育行政等の職員
・NGO、NPO 等の職員
・その他（名称等を記入下さい。　　）
（3）今回のオンライン講座の運営について
①今回の運営は良かったですか（1 択）
・大変良かった　・良かった　・良くなかった　・全くよくなかった
②今回の運営で改善が必要なことは？（複数選択可）
・開講するシーズン　・開講する曜日　・開講する時刻、時間帯
・講座の時間　・その他（　　）
（4）今後のオンライン講座の運営について
①今後の開講するシーズン等について望ましいものを選択ください（1 択）
・学期中　・長期休業期間（夏休み）
②今後の開講する曜日等について望ましいものを選択ください（複数選択可）
・月曜日　・火曜日　・水曜日　・木曜日　・金曜日　・土曜日　・日曜日
・平日　・休日
③今後の開講する時刻について望ましいものを選択ください（複数選択可）
・勤務時間内　・勤務時間終了直後（17 時頃から）
・勤務時間終了後（18 時頃から）
④今後の 1 回の講座の時間について（1 択）
・30 分　・45 分　・60 分　・90 分　・その他（　　）
⑤今後の講座開催のペース（1 択）
・月 1 回のペースで通年　・月 1 回のペースで半年程度
・月 2 回のペースで 3，4 か月程度
・その他（　　）
（5）その他、講座の内容や運営にご意見やご希望がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

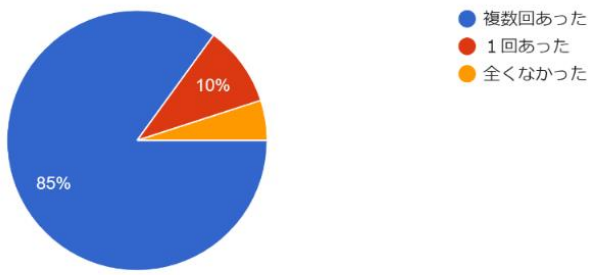
・　アンケート結果（概要）

所属先（勤務先、在籍学校等）について
20 件の回答

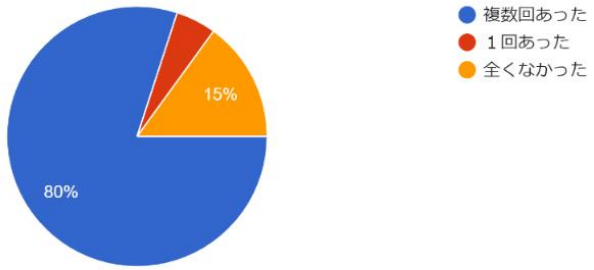


・

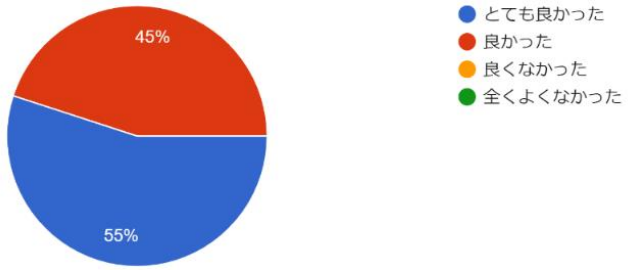
これまでSDGsやESDについて研修や授業など学ぶ機会はありましたか。
20 件の回答



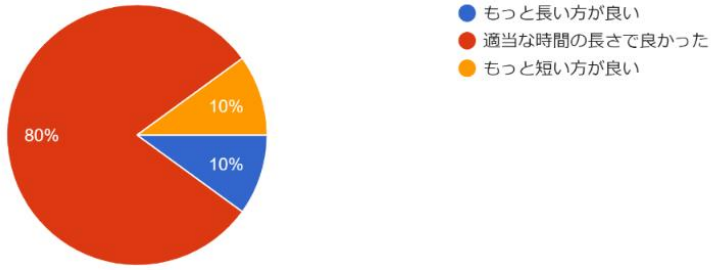
新学習指導要領にはESDやSDGsの考え方が反映...いて、研修や授業などで学ぶ機会はありましたか。
20 件の回答



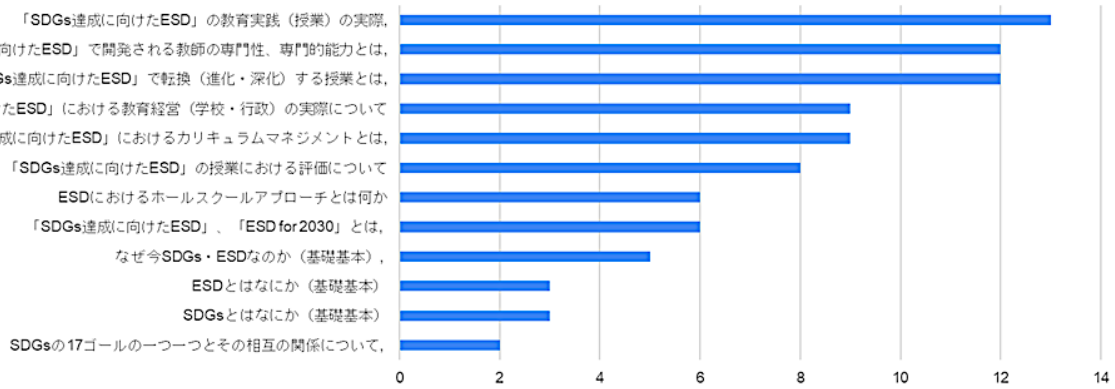
受講した講座の内容について
20 件の回答

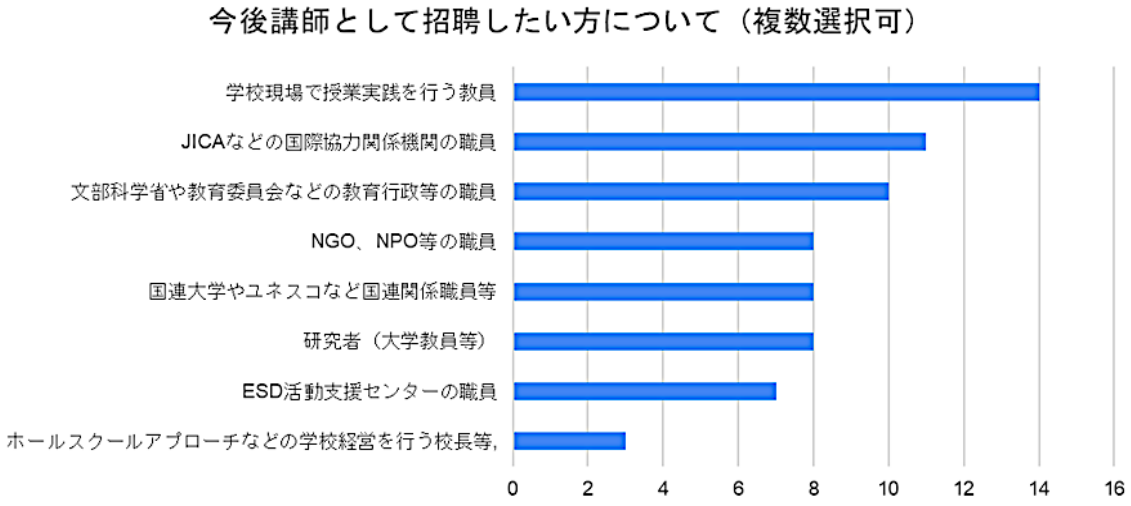


受講した講座の時間について
20 件の回答



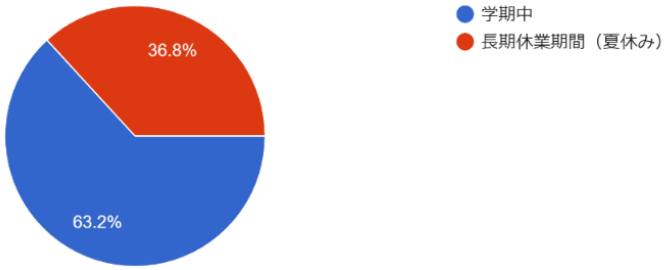
今後の講座で学ぶ内容について（複数選択可）

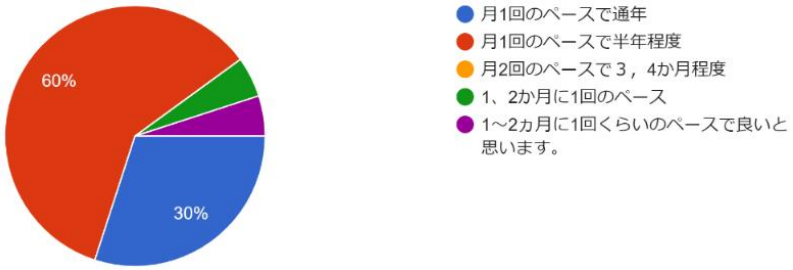




今後の開講するシーズン等について望ましいものを選択ください

19 件の回答



今後の講座開催のペース

20 件の回答